

# 2020年（令和2年） 投資信託に関するアンケート調査 （NISA、iDeCo等制度に関する調査） 調査結果サマリー

【2020年12月調査】

## Point

- つみたてNISAの口座開設金融機関は「ネット証券」が47.8%で最も高く、前回より5.7ポイント増加。（P11）
- つみたてNISA利用意向は、若年層ほど増加する傾向。（P15）
- 個人型確定拠出年金(iDeCo)の認知率(59.9%)は前回より5.2ポイント増加。浸透が進んでいることが伺える。（P18）
- つみたてNISA、企業型/個人型確定拠出年金いずれでも、「外国株式に主に投資する投資信託」の保有率が前回に比べて6～8ポイントほど増加。（P12、P17、P20）
- ETF、Jリート認知率（認知計）は、いずれも20代・30代で前回に比べて増加。（P27、P28）

2021年（令和3年）3月  
一般社団法人 投資信託協会



こちらのサマリーと報告書の全文は  
投資信託協会ホームページにて公開しております。

[https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2\\_2020/](https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2_2020/)



投信協会

	ページ
■ 調査計画の概要 .....	2
1. 本調査の回答者プロフィール .....	3
2. NISAの浸透状況、今後の利用意向 .....	5
3. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向 .....	11
4. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向 .....	16
5. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向 .....	18
6. 確定拠出年金制度の制度改正認知 .....	25
7. ETF、Jリートの浸透状況、今後の購入意向 .....	26

～ 投資信託全般についての実態把握調査のご案内 ～

本アンケート調査とは別に、投資信託全般の保有状況や特徴認知等の実態を把握する調査「投資信託に関するアンケート調査」を実施し、2021年3月に投資信託協会ホームページの「調査報告」にて公表しておりますので、そちらも併せてご参照ください。

<投資信託協会ホームページURL>

<https://www.toushin.or.jp/>

調査の目的	全国の20歳～79歳の男女個人を対象に、『NISA、つみたてNISA、ジュニアNISA、企業型／個人型確定拠出年金(iDeCo)』制度の認知・利用状況、口座での金融商品未購入理由や口座未開設理由、利用意向などを確認すると同時に、『ETF、リート』の認知・保有状況、魅力度、不満点、購入意向などを把握し、今後の投資信託の利用拡大および啓発普及活動に役立つ資料とすること。																																																																																						
調査手法	インターネット調査（抽出フレーム：NRCネットワークパネル） ※ インターネット調査のモニターは、一般的に情報感度が高い事が確認されており、金融商品（投資信託）においては保有率や制度認知が郵送調査モニターなどに比べて高めに出る傾向にあります。																																																																																						
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他地域の3ブロック）																																																																																						
調査対象	20～79歳の男女																																																																																						
サンプル数	<p>総計20,000サンプル</p> <p>* 性・年代・エリアで割付実施（割付は平成31年1月1日現在の住民基本台帳に基づく）。</p> <p>* 職業条件による除外は実施していない。</p> <p>&lt;性・年代・エリアごとの回収数詳細&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>20-29歳</th> <th>30-39歳</th> <th>40-49歳</th> <th>50-59歳</th> <th>60-69歳</th> <th>70-79歳</th> <th>20-79歳計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">男性</td> <td>首都圏</td> <td>417</td> <td>505</td> <td>646</td> <td>529</td> <td>451</td> <td>407</td> <td>2,955</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>192</td> <td>217</td> <td>294</td> <td>243</td> <td>233</td> <td>223</td> <td>1,402</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>721</td> <td>872</td> <td>1,105</td> <td>954</td> <td>1,071</td> <td>870</td> <td>5,593</td> </tr> <tr> <td colspan="2">男性計</td> <td>1,330</td> <td>1,594</td> <td>2,045</td> <td>1,726</td> <td>1,755</td> <td>1,500</td> <td>9,950</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">女性</td> <td>首都圏</td> <td>401</td> <td>474</td> <td>604</td> <td>487</td> <td>455</td> <td>472</td> <td>2,893</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>192</td> <td>220</td> <td>299</td> <td>250</td> <td>252</td> <td>267</td> <td>1,480</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>674</td> <td>831</td> <td>1,066</td> <td>963</td> <td>1,119</td> <td>1,024</td> <td>5,677</td> </tr> <tr> <td colspan="2">女性計</td> <td>1,267</td> <td>1,525</td> <td>1,969</td> <td>1,700</td> <td>1,826</td> <td>1,763</td> <td>10,050</td> </tr> <tr> <td colspan="2">TOTAL</td> <td>2,597</td> <td>3,119</td> <td>4,014</td> <td>3,426</td> <td>3,581</td> <td>3,263</td> <td>20,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ エリアの定義とエリア計での回収数は以下の通り。  【首都圏】 東京、神奈川、埼玉、千葉／計5,848サンプル    【阪神圏】 大阪、京都、兵庫、奈良／計2,882サンプル  【その他地域】 上記以外の都道府県／計11,270サンプル</p>			20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計	男性	首都圏	417	505	646	529	451	407	2,955	阪神圏	192	217	294	243	233	223	1,402	その他地域	721	872	1,105	954	1,071	870	5,593	男性計		1,330	1,594	2,045	1,726	1,755	1,500	9,950	女性	首都圏	401	474	604	487	455	472	2,893	阪神圏	192	220	299	250	252	267	1,480	その他地域	674	831	1,066	963	1,119	1,024	5,677	女性計		1,267	1,525	1,969	1,700	1,826	1,763	10,050	TOTAL		2,597	3,119	4,014	3,426	3,581	3,263	20,000
		20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計																																																																															
男性	首都圏	417	505	646	529	451	407	2,955																																																																															
	阪神圏	192	217	294	243	233	223	1,402																																																																															
	その他地域	721	872	1,105	954	1,071	870	5,593																																																																															
男性計		1,330	1,594	2,045	1,726	1,755	1,500	9,950																																																																															
女性	首都圏	401	474	604	487	455	472	2,893																																																																															
	阪神圏	192	220	299	250	252	267	1,480																																																																															
	その他地域	674	831	1,066	963	1,119	1,024	5,677																																																																															
女性計		1,267	1,525	1,969	1,700	1,826	1,763	10,050																																																																															
TOTAL		2,597	3,119	4,014	3,426	3,581	3,263	20,000																																																																															
調査時期	2020年11月26日（木）～12月5日（土）																																																																																						
調査主体	一般社団法人 投資信託協会																																																																																						
調査実施機関	株式会社日本リサーチセンター																																																																																						

<グラフ・表・コメントについて>

- ・ 本報告書の回答割合等の数値(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。
- ・ グラフ、数表上の数値は特に断りがない限りは%値となる。また“n”は各属性の実数(サンプル数)を表しており、n数が少ない属性(30未満)のデータを見る際は、あくまで参考値として捉えるように注意する必要がある。

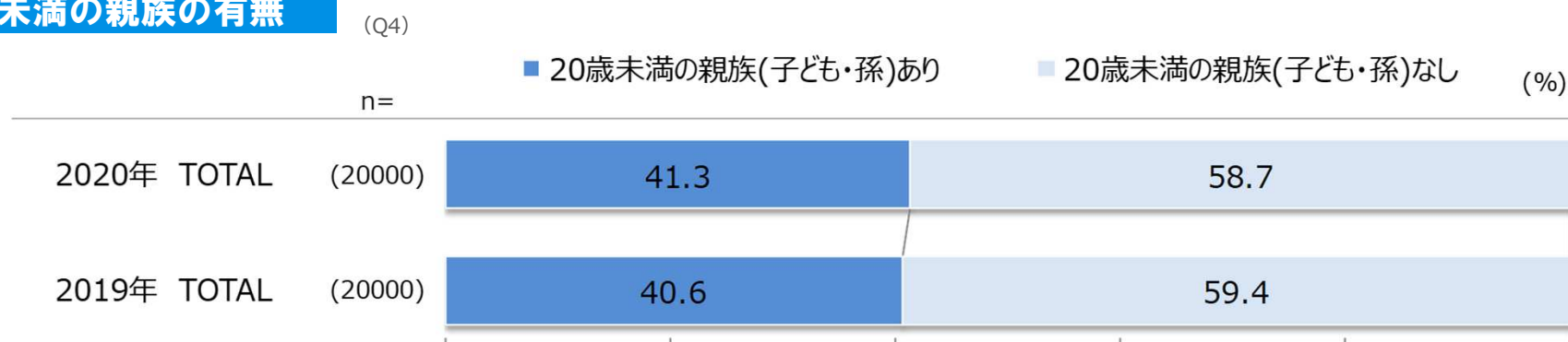
# 1. 本調査の回答者プロフィール



## 回答者の性別・年代



## 20歳未満の親族の有無



# 1. 本調査の回答者プロフィール



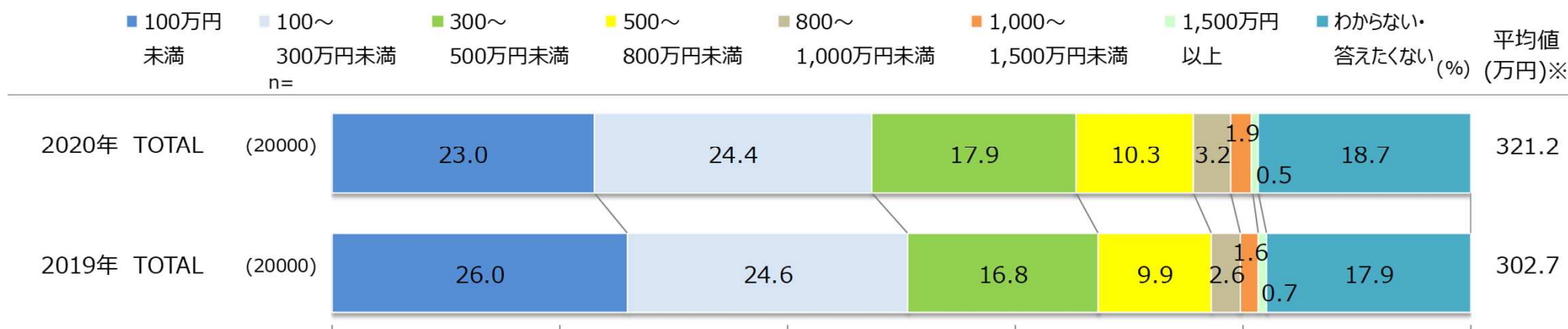
## 回答者の世帯年収

(Q5①)



## 回答者の個人年収

(Q5②)



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100~300万円未満：200万円 / 300~500万円未満：400万円 / 500~800万円未満：650万円 / 800万円~1000万円未満：900万円 / 1000~1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

# 2. NISAの浸透状況、今後の利用意向（1）



## NISAの認知/利用状況/積立投資実施状況/口座開設金融機関

(Q14①、Q15\_1①、Q17①、Q18①)

### 【認知】

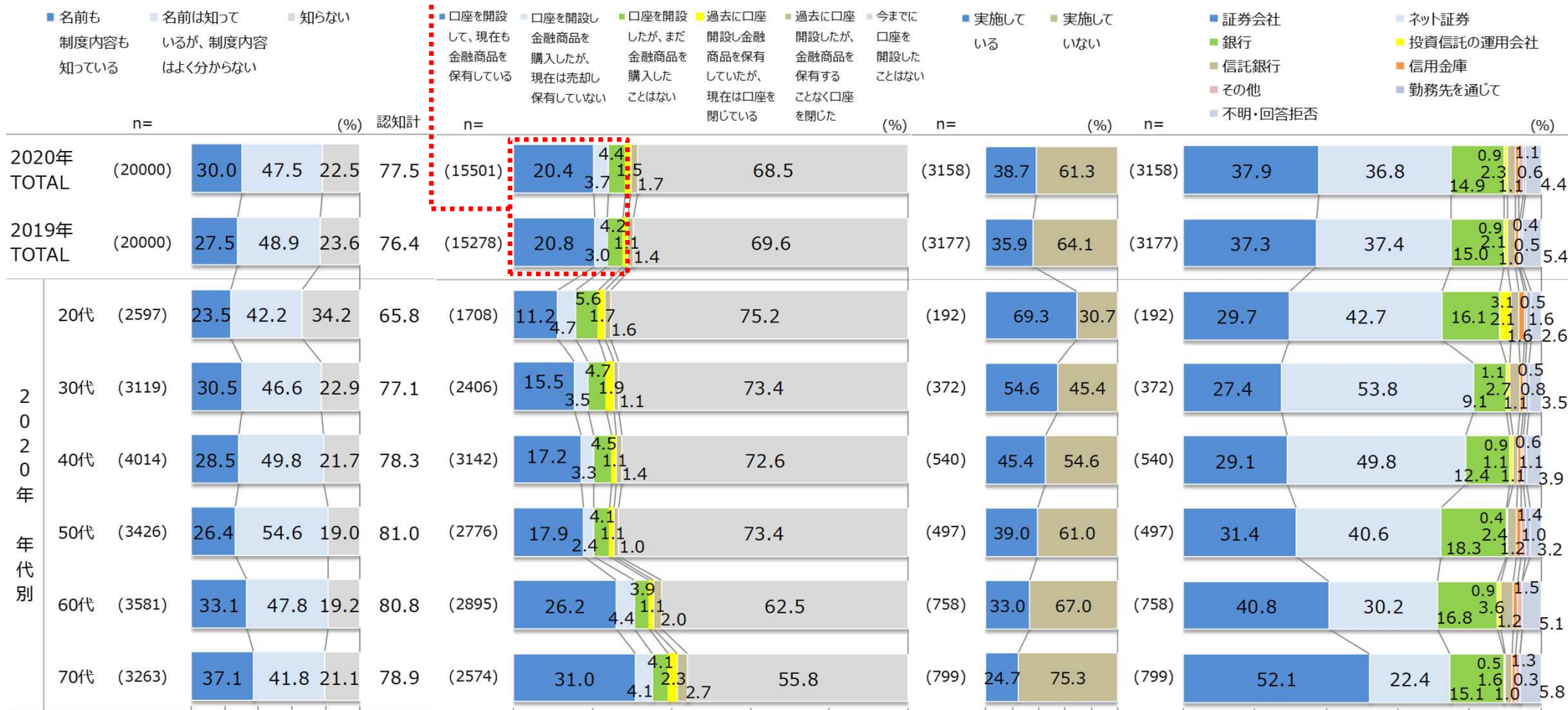
### 【利用状況】（認知者ベース）

### 【積立投資実施状況】

### 【口座開設金融機関】

（現在口座開設・金融商品保有者ベース）

\* NISA口座開設者における金融商品保有率  
 2020年(n=4405):71.7%  
 2019年(n=4272):74.4%



- NISAの認知率(認知計)は77.5%。制度内容認知率は30.0%で、前回よりわずかに増加。20代では、認知計が65.8%と他の年代に比べて低い。
- NISA認知者のうち、NISAでの現在金融商品保有率は20.4%。いずれの項目も前回と同程度。年代が上がるにつれて、NISAでの現在金融商品保有率は高くなる。
- NISAでの積立投資実施率は38.7%で、前回よりやや増加。若年層ほど積立投資実施率は高くなる。
- NISAの口座開設の金融機関は「証券会社」(37.9%)、「ネット証券」(36.8%)ではほぼ同程度。「証券会社」は60代以上で4割以上、「ネット証券」は30代・40代で5割程度と高い。

## 2. NISAの浸透状況、今後の利用意向（2）

### NISAでの保有金融商品（重複回答）

(Q16\_1①)

(NISAでの現在金融商品保有者ベース)

		n=	株式	投資信託	ETF	Jリート	その他	不明・非回答	(%)
2020年 TOTAL		(3158)	62.6	41.1	5.4	7.0	1.4	8.1	
2019年 TOTAL		(3177)	63.0	39.7	4.5	6.6	1.5	7.6	
2020年別	20代	(192)	62.5	49.5	12.0	8.3	2.1	5.2	
	30代	(372)	67.2	43.5	9.1	6.2	0.5	5.9	
	40代	(540)	65.4	44.8	8.5	8.3	2.0	6.1	
	50代	(497)	56.5	47.7	4.8	5.4	1.6	7.8	
	60代	(758)	60.3	37.1	3.4	7.5	1.1	10.0	
	70代	(799)	64.7	35.3	2.3	6.6	1.3	9.6	

		n=	国内債券に主に投資する投資信託	外国債券に主に投資する投資信託	国内株式に主に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投信に主に投資する投資信託 (除くJリート)	様々な資産に投資する投資信託	(%)
2020年 TOTAL		(3158)	12.2	10.9	16.4	15.0	5.1	8.0	
2019年 TOTAL		(3177)	12.1	10.6	16.1	12.6	5.2	8.3	
2020年別	20代	(192)	13.5	14.6	18.8	21.4	7.3	6.8	
	30代	(372)	10.8	10.8	20.4	20.7	7.8	7.3	
	40代	(540)	13.3	11.9	18.5	21.1	6.7	11.5	
	50代	(497)	14.9	13.1	20.1	18.1	6.4	9.7	
	60代	(758)	10.8	8.6	14.0	12.0	2.9	7.8	
	70代	(799)	11.5	10.3	12.4	7.6	3.4	5.4	

- NISAでの保有金融商品は、「株式」(62.6%)、「投資信託」(41.1%)で前回と同程度。
- 「ETF」「外国株式に主に投資する投資信託」では若年層ほど保有率が高い傾向。

## 2. NISAの浸透状況、今後の利用意向（3）

### NISA口座開設・金融商品未購入理由（重複回答）

(Q19①)

(NISA口座開設・金融商品未購入層ベース)

		n=	どの商品を購入してよいか わからないから	投資に回す お金がないから	金融機関に 勧められて 口座開設した だけだから	投資の知識が ないから/知識 がないと 難しそうだから	経済状況など、 商品購入や口 座開設のタイ ミングを見定めて いるから	制度が複雑で よく理解 できないから	非課税期間が 短いから	年間の非課税 投資限度額 (120万円) が小さいから	投資自体に 関心がない から	制度の内容を 知らないから	株式や投資信 託以外の商品 (国債、公社 債など)が購入 できないから	既に十分な 資産があり、 投資は必要 ないから	その他	特に理由は ない	(%)
2020年 TOTAL		(681)	18.5	13.2	11.7	10.1	9.5	7.9	7.3	5.9	5.6	4.6	2.5	1.3	2.5	26.1	
2019年 TOTAL		(642)	17.0	15.4	12.3	7.2	7.6	7.5	7.5	4.5	9.0	4.8	3.4	1.1	1.7	28.5	
2020年 別年	20代	(95)	23.2	8.4	7.4	9.5	21.1	6.3	9.5	11.6	1.1	6.3	3.2	3.2	1.1	18.9	
	30代	(112)	23.2	13.4	4.5	11.6	10.7	9.8	10.7	8.0	0.9	8.9	3.6	1.8	6.3	24.1	
	40代	(141)	22.0	14.9	7.1	10.6	7.1	9.2	7.8	3.5	3.5	2.1	1.4	1.4	1.4	22.7	
	50代	(115)	13.9	23.5	13.9	13.9	7.8	9.6	7.0	5.2	5.2	5.2	2.6	0.0	4.3	29.6	
	60代	(113)	15.9	6.2	18.6	10.6	6.2	8.8	8.8	4.4	9.7	3.5	2.7	0.0	0.9	26.5	
	70代	(105)	12.4	11.4	20.0	3.8	6.7	2.9	0.0	3.8	13.3	1.9	1.9	1.9	1.0	35.2	

### NISA口座未開設理由（重複回答）

(Q19①)

(NISA認知・口座未開設層ベース)

		n=	投資自体に 関心がない から	投資の知識が ないから/知識 がないと 難しそうだから	投資に回す お金がない から	どの商品を購入してよいか わからないから	制度が複雑で よく理解 できないから	制度の内容を 知らないから	口座開設の申 込手続きが 煩雑で 面倒だから	非課税期間が 短いから	年間の非課税 投資限度額 (120万円) が小さいから	経済状況など、 商品購入や口 座開設のタイ ミングを見定めて いるから	既に十分な 資産があり、 投資は必要 ないから	株式や投資信 託以外の商品 (国債、公社 債など)が購入 できないから	その他	特に理由は ない	(%)
2020年 TOTAL		(10612)	23.4	19.9	16.5	8.3	8.3	8.1	7.4	3.2	2.2	2.1	0.9	0.7	1.5	34.5	
2019年 TOTAL		(10628)	25.7	18.1	17.0	7.4	7.3	7.9	7.1	2.7	1.9	1.7	0.7	0.7	1.3	35.4	
2020年 別年	20代	(1285)	15.4	26.8	18.0	11.2	11.7	11.8	9.8	4.6	1.6	4.3	1.1	0.7	1.2	31.8	
	30代	(1765)	14.8	25.7	18.3	11.2	11.4	10.5	9.6	4.2	2.9	3.6	0.9	0.7	2.0	31.7	
	40代	(2280)	18.8	22.2	19.3	10.5	8.8	9.1	7.8	3.6	2.0	2.5	0.8	0.5	1.5	33.0	
	50代	(2037)	24.4	18.0	15.8	6.8	7.9	7.3	7.1	2.8	1.7	1.6	0.5	0.9	1.3	36.8	
	60代	(1808)	32.8	15.0	13.7	5.9	5.3	6.1	6.0	2.6	2.3	0.7	1.0	0.7	1.7	35.2	
	70代	(1437)	35.1	11.8	12.9	4.0	4.7	4.2	4.4	1.6	2.7	0.5	1.3	0.8	1.5	38.2	

- NISAでの金融商品未購入理由は、「どの商品を購入してよいかわからない」(18.5%)、「投資に回すお金がない」(13.2%)、「金融機関に勧められて口座開設しただけ」(11.7%)が上位で、いずれも前回と同程度。20代で「どの商品を購入してよいかわからない」と知識不足傾向がみられる一方、「タイミングを見定めている」との理由も高い。
- NISA口座未開設理由は、「投資自体に関心がない」(23.4%)、「投資の知識がない/知識がないと難しそう」(19.9%)、「投資に回すお金がない」(16.5%)が上位で、前年と大きな変動は見られない。若年層ほど「投資自体に関心がない」は低いが、「投資に回すお金がない」という経済的理由や、投資に関する知識不足の項目が高い。



## 2. NISAの浸透状況、今後の利用意向（4）

### NISAでの金融商品購入検討のきっかけ（重複回答）

(Q20①)

( NISA口座開設・金融商品未購入層ベース)

		n=	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	身近な人に勧められたら	貯蓄が一定額に達したら	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	職場で制度が導入されたら	その他	特にない	(%)
2020年	TOTAL	(681)	14.8	12.6	11.5	10.6	10.1	9.8	8.7	7.5	7.3	7.2	4.8	2.8	0.6	33.5	
2019年	TOTAL	(642)	10.6	11.7	8.9	12.1	7.0	8.4	10.0	10.3	7.3	7.9	5.6	1.4	0.5	39.6	
2020年 別年	20代	(95)	29.5	15.8	13.7	13.7	7.4	20.0	12.6	6.3	6.3	10.5	4.2	2.1	0.0	15.8	
	30代	(112)	16.1	20.5	19.6	20.5	12.5	11.6	8.0	7.1	7.1	7.1	6.3	4.5	0.0	24.1	
	40代	(141)	14.2	17.0	9.9	11.3	7.8	8.5	7.1	7.1	5.7	7.1	7.1	2.8	0.7	29.8	
	50代	(115)	10.4	14.8	10.4	6.1	10.4	12.2	13.9	7.8	9.6	7.8	6.1	4.3	2.6	33.9	
	60代	(113)	9.7	1.8	10.6	3.5	9.7	1.8	8.0	8.8	8.8	4.4	1.8	0.9	0.0	50.4	
	70代	(105)	11.4	4.8	4.8	8.6	13.3	6.7	2.9	7.6	6.7	6.7	2.9	1.9	0.0	45.7	

### NISA口座開設検討のきっかけ（重複回答）

(Q20①)

( NISA認知・口座未開設層ベース)

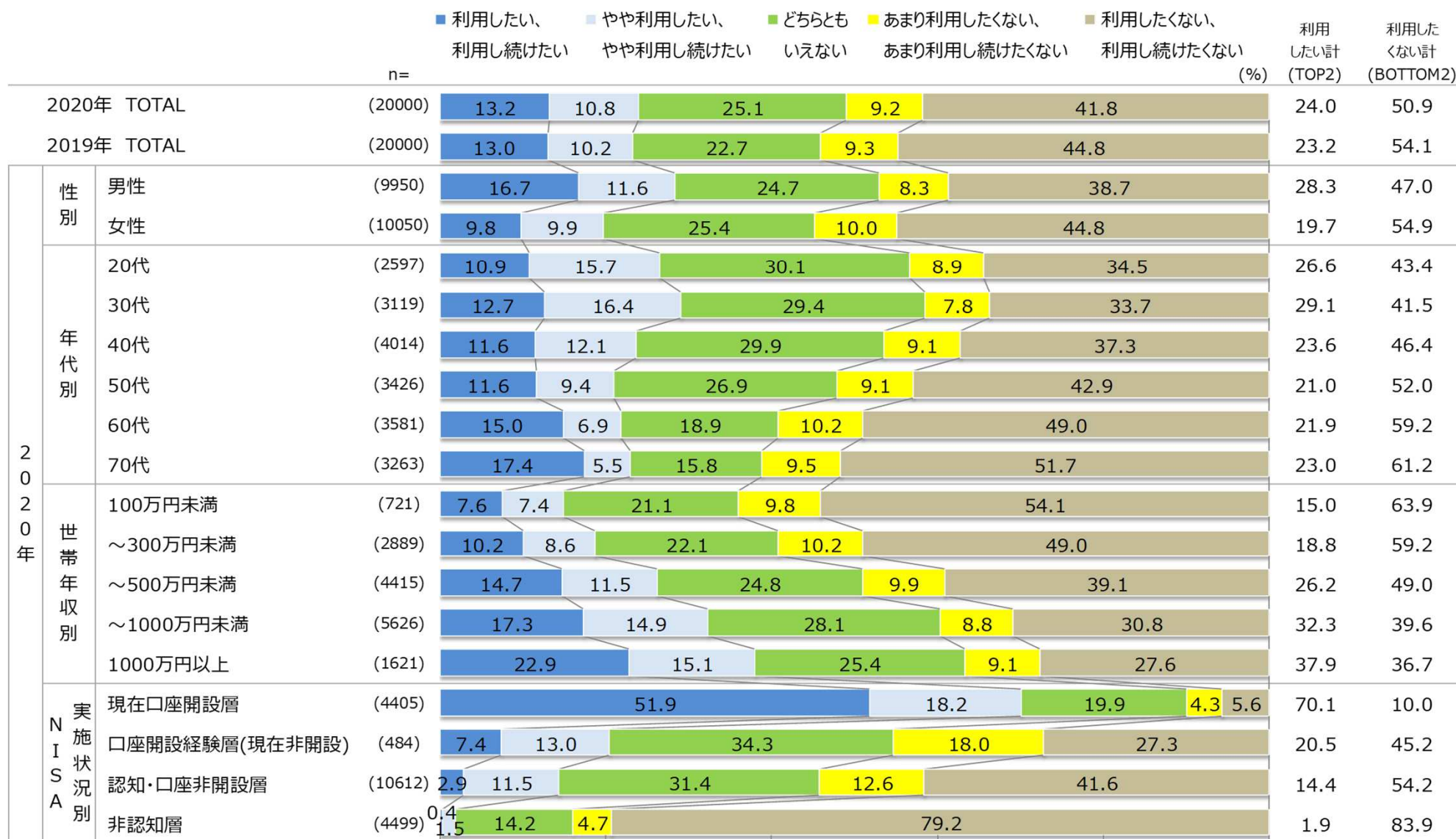
		n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できたら	身近な人に勧められたら	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら	貯蓄が一定額に達したら	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	職場で制度が導入されたら	その他	特にない	(%)
2020年	TOTAL	(10612)	12.6	10.8	10.0	7.7	7.4	6.8	6.0	5.1	4.6	4.3	2.7	2.7	0.5	57.7	
2019年	TOTAL	(10628)	11.4	8.8	8.3	6.3	7.0	5.5	5.1	4.5	4.2	3.7	2.7	1.8	0.5	63.0	
2020年 別年	20代	(1285)	21.9	17.1	18.1	12.5	13.5	10.5	9.5	4.8	5.2	6.6	3.1	3.6	0.2	42.4	
	30代	(1765)	18.4	15.6	15.8	11.6	11.7	9.7	7.8	6.5	5.5	5.4	2.2	4.0	0.7	44.4	
	40代	(2280)	16.7	13.2	11.0	8.5	9.0	7.2	6.3	6.2	5.1	5.0	3.3	3.1	0.6	50.0	
	50代	(2037)	10.3	8.9	7.3	6.6	4.8	5.9	5.4	5.0	4.4	3.8	3.3	2.9	0.3	61.6	
	60代	(1808)	5.6	5.9	4.9	4.3	3.4	4.8	4.6	3.8	4.3	3.2	2.7	1.3	0.8	70.4	
	70代	(1437)	2.9	4.0	4.2	3.0	2.6	3.1	2.4	3.9	3.0	1.9	1.4	0.8	0.6	78.4	

- NISA口座での金融商品購入検討のきっかけは「金融や投資を勉強して理解できたら」（14.8%）が最も高く、前回より4.2ポイント増加。20代は「金融や投資を勉強して理解できたら」「初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら」が、30代は「手取りが増えたら」「身近な人に勧められたら」「貯蓄が一定額に達したら」が、50代は「低リスクの投資信託商品が充実してきたら」が他の年代より高い。
- NISA認知・口座未開設層のNISA口座開設検討のきっかけは、「手取り収入が増えたら」（12.6%）が最も高く、次いで「金融や投資を勉強して理解できたら」（10.8%）、「身近な人に勧められたら」（10.0%）、「初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら」（7.7%）が続く。若年層ほど経済状況の変化や知識不足の解消、「身近な人の勧め」が検討のきっかけとなる模様。

## 2. NISAの浸透状況、今後の利用意向（5）

### NISAの今後の利用意向・継続利用意向

(Q21①)

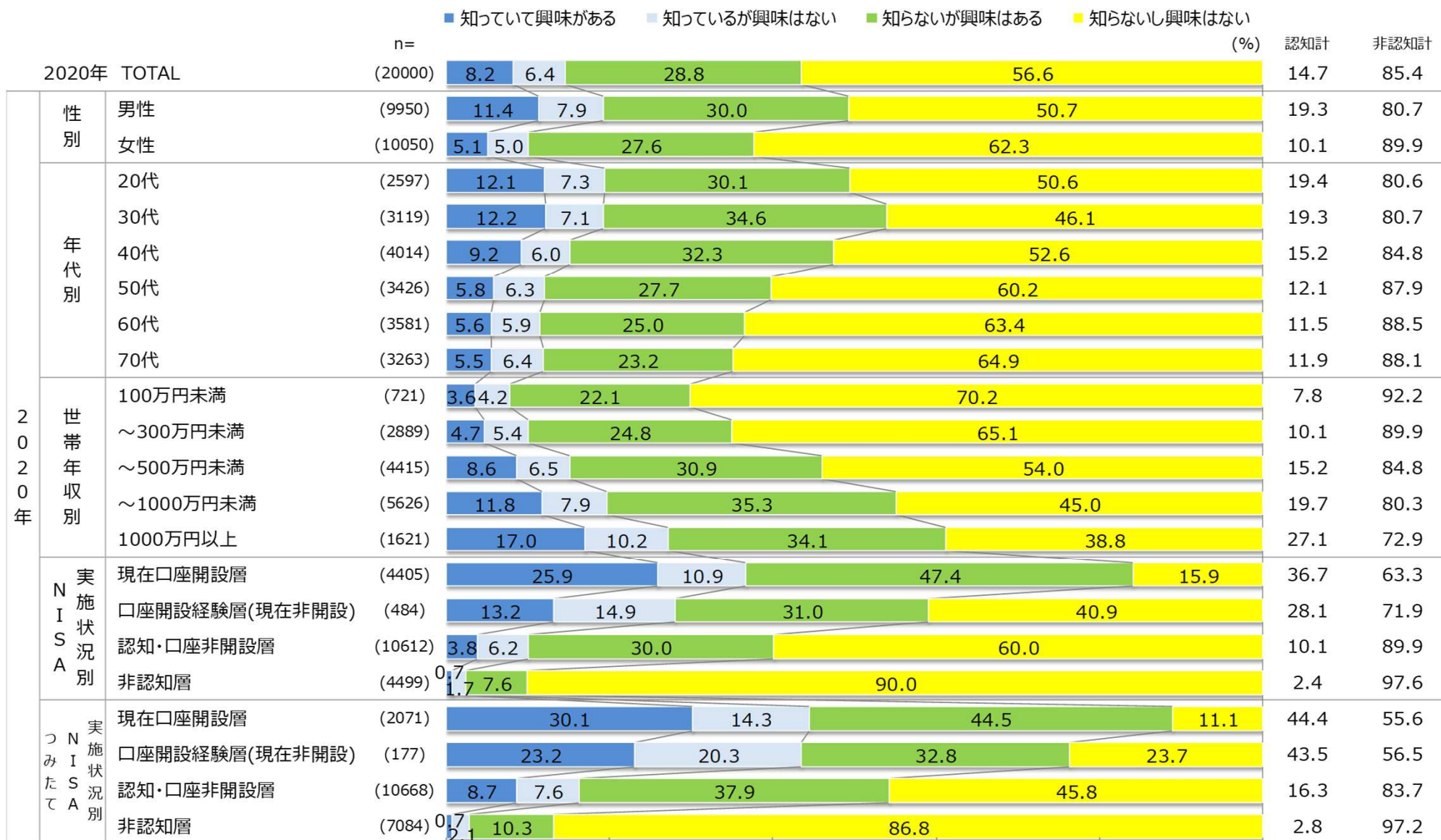


- NISAの利用・継続利用意向は、「利用したい計」(TOP2)が24.0%で前回と同程度。「利用したくない計」(BOTTOM2)は50.9%で、前回より3.2ポイント減少。
- 「利用したい、利用し続けたい」との強い意向は60代・70代で高く、高年収層ほど高い。

## 2. NISAの浸透状況、今後の利用意向（6）

### NISAの制度改正の認知

(Q22\_3)



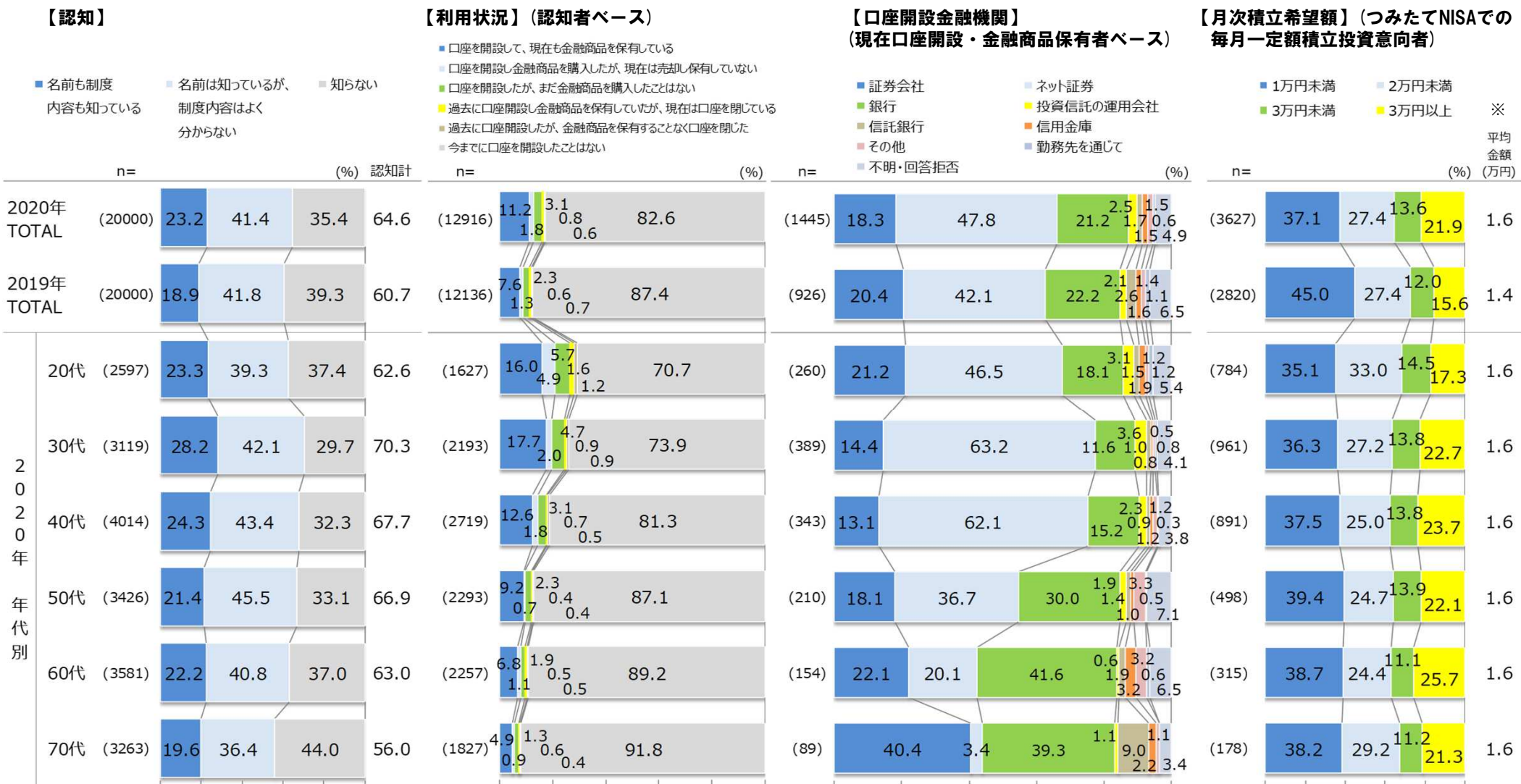
- NISAの制度改正の認知率（認知計）は14.7%。非認知率（非認知計）は85.4%。「知らないし興味はない」が5割を超える。
- 認知率は若年層ほど高くなる傾向。また、高年収層ほど高くなる。
- NISA実施状況別では、現在口座開設層の認知率が36.7%で他層より高い。つみたてNISA実施状況別では、現在口座開設層、口座開設経験層が4割を超え、他層より高い。

# 3. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向 (1)



## つみたてNISAの認知/利用状況/口座開設金融機関/月次積立投資希望額

(Q14②、Q15\_1②、Q18②、Q24\_2)



※平均値算出にあたってのウエイト値：2019年 1万円未満：0.5万円/2万円未満：1.5万円/3万円未満：2.5万円/3万円以上：3万円  
 ; 2018年 1万円未満：0.5万円/2万円未満：1万円/2万円以上：3万円

- つみたてNISAの認知率(認知計)は64.6%と、前回より3.9ポイント増加。制度内容認知率(23.2%)も4.3ポイント増加。30代の認知率が高く、70代でやや低い。
- つみたてNISA認知者のうち、現在金融商品保有者は11.2%にとどまるが、前回に比べて3.6ポイント増加している。
- つみたてNISAの口座開設金融機関は「ネット証券」が47.8%で最も高く、次いで「銀行」(21.2%)、「証券会社」(18.3%)が続く。前回に比べて「ネット証券」が5.7ポイント増加。
- 月次積立希望額は、「1万円未満」(37.1%)が最も高い。前回より「1万円未満」が7.9ポイント減少し、「3万円以上」が6.3ポイント増加。平均金額は「1.6万円」。

### 3. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向（2）



#### つみたてNISAでの保有金融商品（重複回答）

(Q16\_2)

(つみたてNISAでの現在金融商品保有者ベース)

		n=	投資信託	ETF	その他	不明・非回答	(%)
2020年 TOTAL		(1445)	85.1	3.3	1.5		12.7
2019年 TOTAL		(926)	82.1	4.5	2.7		14.4
2020年別	20代	(260)	89.2	5.0	1.5		8.5
	30代	(389)	88.2	3.1	1.0		10.0
	40代	(343)	87.2	4.1	1.2		10.2
	50代	(210)	81.9	3.8	1.0		17.1
	60代	(154)	76.0	0.6	2.6		20.8
	70代	(89)	74.2	0.0	3.4		22.5

		n=	国内債券に主に投資する投資信託	外国債券に主に投資する投資信託	国内株式に主に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投信に主に投資する投資信託(除くJリート)	様々な資産に投資する投資信託	(%)
2020年 TOTAL		(1445)	20.4	15.6	32.0	42.2	4.3	16.8	
2019年 TOTAL		(926)	25.9	13.7	30.5	33.8	6.0	19.1	
2020年別	20代	(260)	26.2	20.0	36.2	45.8	5.8	15.4	
	30代	(389)	17.2	13.6	31.1	49.1	4.4	14.1	
	40代	(343)	16.9	16.3	36.2	52.2	5.0	20.1	
	50代	(210)	22.9	17.1	28.6	37.1	1.9	16.7	
	60代	(154)	22.7	11.0	24.7	17.5	2.6	19.5	
	70代	(89)	21.3	13.5	28.1	18.0	5.6	15.7	

- つみたてNISAでの保有金融商品は、「投資信託」が85.1%を占める。また、「投資信託」の詳細内訳は、「外国株式に主に投資する投資信託」(42.2%)が最も高く、前回より8.4ポイント増加。次いで「国内株式に主に投資する投資信託」(32.0%)の保有率が高い。
- 年代別で見ると、「国内株式／外国株式に主に投資する投資信託」では40代以下での保有率が高い傾向。

# 3. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向 (3)



## つみたてNISA口座開設・金融商品未購入理由 (重複回答)

(Q19②)

( つみたてNISA口座開設・金融商品未購入層ベース )

	n=	どの商品を購入してよいかわからないから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	投資に回すお金がないから	投資の知識がないから／知識がないと難しそうだから	制度が複雑でよく理解できないから	年間の非課税投資限度額 (40万円) が小さいから	制度の内容を知らないから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	金融機関に勧められて口座開設しただけだから	非課税期間が短いから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	投資自体に関心がないから	その他	特に理由はない	(%)
2020年 TOTAL	(398)	19.6	18.1	13.3	10.1	9.0	8.5	7.3	6.3	5.8	4.5	3.3	2.5	4.3	20.6	
2019年 TOTAL	(283)	20.1	16.6	14.5	6.7	8.8	10.6	7.8	7.4	4.6	3.9	2.1	4.2	3.5	23.7	
2020年別年	20代 (92)	21.7	30.4	16.3	10.9	5.4	12.0	3.3	8.7	4.3	2.2	2.2	3.3	3.3	13.0	
	30代 (103)	23.3	17.5	15.5	8.7	11.7	7.8	13.6	8.7	4.9	4.9	3.9	1.0	4.9	17.5	
	40代 (85)	15.3	14.1	10.6	11.8	15.3	11.8	3.5	3.5	7.1	2.4	2.4	2.4	4.7	18.8	
	50代 (52)	15.4	13.5	15.4	13.5	7.7	7.7	9.6	5.8	7.7	5.8	1.9	0.0	5.8	28.8	
	60代 (42)	16.7	14.3	7.1	9.5	2.4	0.0	4.8	0.0	4.8	11.9	2.4	7.1	2.4	35.7	
70代 (24)	25.0	4.2	8.3	0.0	4.2	4.2	8.3	8.3	8.3	8.3	4.2	12.5	4.2	4.2	25.0	

## つみたてNISA口座未開設理由 (重複回答)

(Q19②)

( つみたてNISA認知・口座未開設層ベース )

	n=	投資自体に関心がないから	投資の知識がないから／知識がないと難しそうだから	投資に回すお金がないから	どの商品を購入してよいかわからないから	制度が複雑でよく理解できないから	制度の内容を知らないから	口座開設の申込手続きが煩雑で面倒だから	年間の非課税投資限度額 (40万円) が小さいから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	非課税期間が短いから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由はない	(%)
2020年 TOTAL	(10668)	17.2	16.4	14.9	8.3	7.6	7.4	7.2	4.8	2.6	1.7	1.5	1.0	2.1	37.6	
2019年 TOTAL	(10610)	18.4	14.5	15.2	7.2	6.7	7.1	6.9	4.7	2.0	2.0	1.5	0.8	1.8	38.9	
2020年別年	20代 (1150)	14.4	27.4	17.4	11.7	11.7	11.9	10.8	3.0	5.2	1.1	1.7	0.9	1.1	31.3	
	30代 (1620)	13.0	24.1	18.3	12.2	11.2	10.2	9.8	4.8	4.4	1.2	1.4	1.2	2.2	30.4	
	40代 (2210)	14.3	19.0	18.5	10.7	8.8	8.2	7.6	4.9	3.0	1.8	1.6	0.7	1.9	33.9	
	50代 (1997)	18.0	14.9	15.2	7.2	7.5	6.3	7.4	5.1	1.8	1.7	1.6	0.7	2.3	38.2	
	60代 (2013)	21.5	10.4	10.5	5.3	4.2	5.4	5.0	5.1	1.2	2.4	1.3	1.1	2.2	42.1	
70代 (1678)	20.7	7.2	10.1	3.8	3.8	4.1	3.8	4.9	1.0	1.5	1.1	1.4	2.4	47.9		

- つみたてNISAでの金融商品未購入理由は、「どの商品を購入してよいかわからない」(19.6%)が最も高い。次いで「タイミングを見定めている」(18.1%)が続く。20代では「タイミングを見定めている」が他の年代に比べて高い。
- つみたてNISA口座未開設の理由は、「投資自体に関心がない」(17.2%)、「投資の知識がない／知識がないと難しそう」(16.4%)、「投資に回すお金がない」(14.9%)が上位。若年層ほど投資に関する知識・理解不足の項目が高い傾向。

### 3. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向（4）



#### つみたてNISAでの金融商品購入検討のきっかけ（重複回答）

(Q20②)

( つみたてNISA口座開設・金融商品未購入層ベース)

	n=	金融や投資を勉強して理解できた	手取り収入が増えたら	貯蓄が一定額に達したら	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があった	身近な人に勧められた	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	低リスクの投資信託商品が充実してきた	手数料の低い投資信託商品が充実してきた	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になった	税制上の優遇措置が、より拡充してきた	退職金・相続などの臨時収入があった	職場で制度が導入された	その他	特にな	
2020年 TOTAL	(398)	20.1	18.3	17.6	14.8	12.1	11.8	10.1	8.3	7.5	7.3	5.8	4.3	1.0	22.1	
2019年 TOTAL	(283)	19.1	18.7	18.7	13.8	9.9	9.5	8.5	11.7	9.5	6.7	8.5	0.7	1.1	23.7	
2020年別	20代	(92)	22.8	31.5	26.1	26.1	13.0	12.0	13.0	15.2	5.4	7.6	9.8	2.2	2.2	7.6
	30代	(103)	28.2	19.4	20.4	11.7	20.4	14.6	11.7	6.8	8.7	9.7	2.9	4.9	1.0	17.5
	40代	(85)	18.8	14.1	14.1	12.9	10.6	8.2	9.4	7.1	5.9	3.5	8.2	5.9	1.2	22.4
	50代	(52)	15.4	13.5	9.6	11.5	7.7	15.4	9.6	7.7	9.6	7.7	5.8	7.7	0.0	32.7
	60代	(42)	7.1	9.5	9.5	2.4	4.8	11.9	7.1	2.4	9.5	7.1	0.0	2.4	0.0	42.9
70代	(24)	12.5	4.2	16.7	20.8	0.0	4.2	0.0	4.2	8.3	8.3	4.2	0.0	0.0	37.5	

#### つみたてNISA口座開設検討のきっかけ（重複回答）

(Q20②)

( つみたてNISA認知・口座未開設層ベース)

	n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できた	身近な人に勧められた	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があった	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	貯蓄が一定額に達したら	税制上の優遇措置が、より拡充してきた	低リスクの投資信託商品が充実してきた	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になった	手数料の低い投資信託商品が充実してきた	退職金・相続などの臨時収入があった	職場で制度が導入された	その他	特にな	
2020年 TOTAL	(10668)	11.9	10.1	9.3	7.7	7.4	6.9	5.9	5.7	4.8	4.5	2.7	2.2	0.7	56.6	
2019年 TOTAL	(10610)	10.8	8.5	8.0	6.1	6.0	6.5	5.9	5.2	4.5	4.1	2.8	1.6	0.6	60.5	
2020年別	20代	(1150)	21.1	17.5	17.4	12.9	11.3	13.0	4.7	8.9	5.5	6.2	4.0	3.5	0.3	42.3
	30代	(1620)	18.0	15.5	15.5	11.9	10.4	11.9	6.8	7.7	5.1	5.4	2.7	3.8	0.7	42.3
	40代	(2210)	17.1	12.9	10.9	8.9	7.6	8.6	7.4	6.3	5.1	5.3	3.2	2.8	0.7	47.9
	50代	(1997)	10.9	8.5	6.4	6.5	6.3	4.9	5.9	5.7	4.9	3.9	3.3	2.5	0.5	59.6
	60代	(2013)	4.8	6.1	5.0	4.6	6.3	2.9	5.0	4.6	4.8	4.2	1.8	0.7	0.9	67.6
70代	(1678)	2.7	3.0	4.1	3.5	4.4	2.6	5.2	2.2	3.8	2.2	1.8	0.5	1.0	75.0	

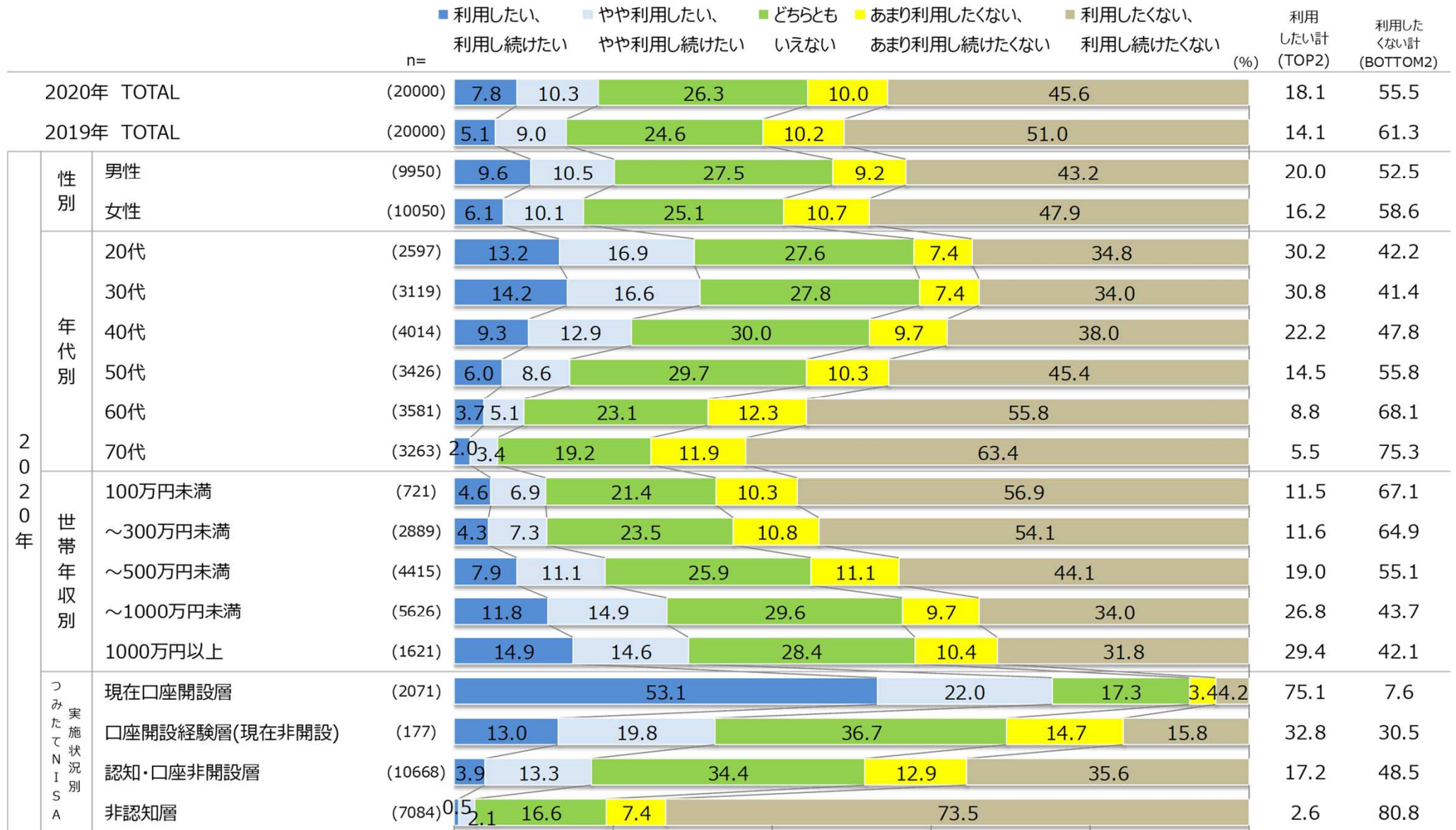
- つみたてNISA口座での金融商品購入検討のきっかけは、「金融や投資を勉強して理解できた」(20.1%)、「手取り収入が増えたら」(18.3%)、「貯蓄が一定額に達したら」(17.6%)が上位。若年層ほど「手取り収入が増えたら」「低リスクの投資信託商品が充実したら」が高い傾向。20代で「手数料の低い投資信託商品が充実してきた」、30代で「金融や投資を勉強して理解できた」「身近な人の勧め」が高い。
- つみたてNISA口座開設検討のきっかけは「手取り収入が増えたら」(11.9%)、「金融や投資を勉強して理解できた」(10.1%)、「身近な人の勧め」(9.3%)が上位。若年層ほど経済的理由や知識不足の解消に関する項目、「身近な人の勧め」が高い傾向。

# 3. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向 (5)



## つみたてNISAの今後の利用意向・継続利用意向

(Q21②)



- つみたてNISAの利用意向は、「利用したい計」(TOP2)が18.1%、「利用したくない計」(BOTTOM2)が55.5%で、前回より利用意向が4.0ポイント増加。
- 「利用したい計」は若年層、高年収層ほど増加する傾向。



# 4. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向 (1)

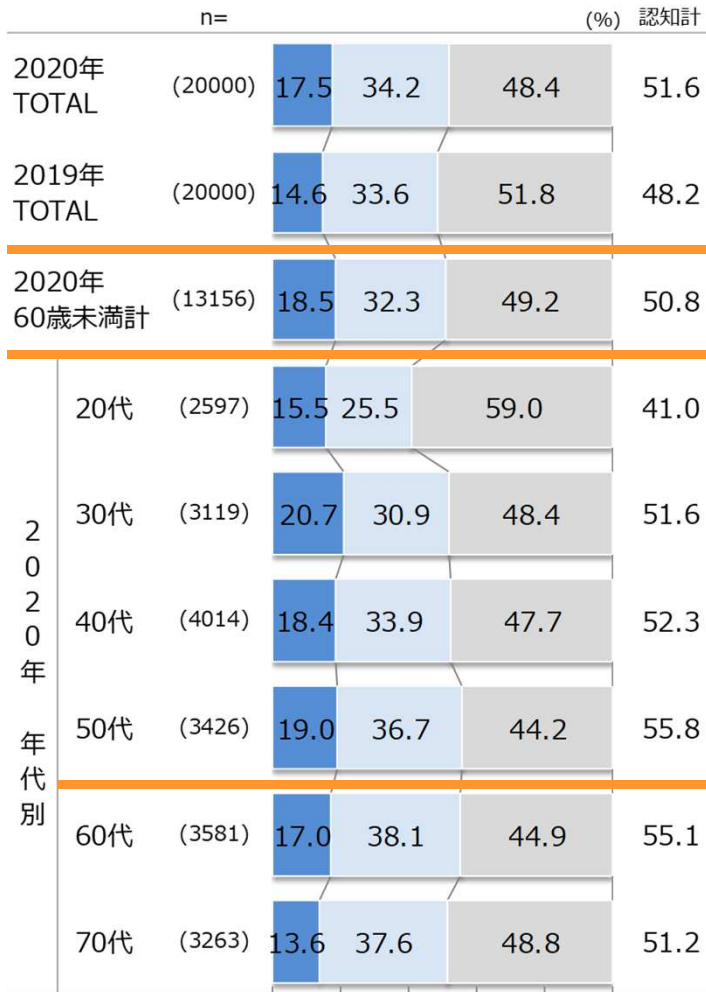


## 企業型確定拠出年金の認知/利用状況/マッチング拠出実施状況

(Q14④、Q15\_2①、Q30)

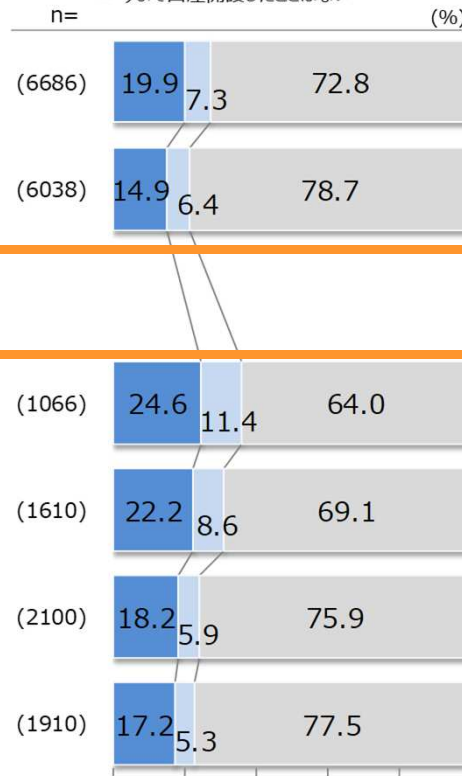
### 【認知】

■ 名前も制度内容も知っている  
 ■ 名前は知っているが、制度内容はよく分らない  
 ■ 知らない



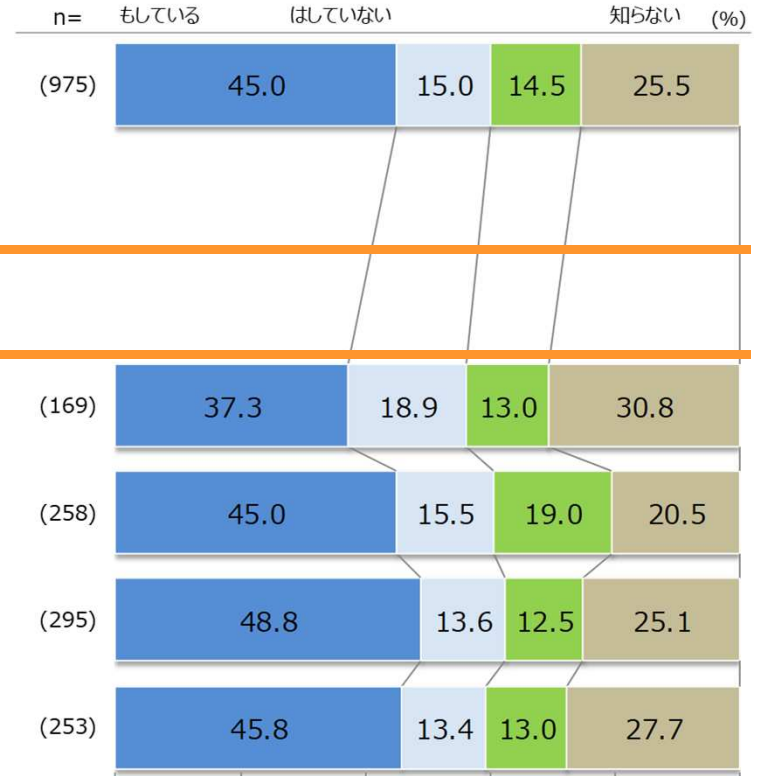
### 【利用状況】(60歳未満の認知者ベース)

■ 口座を開設して、現在も金融商品を保有している  
 ■ 過去に口座を開設し金融商品を保有していたが、現在は口座を閉じている  
 ■ 今まで口座開設したことはない



### 【マッチング拠出実施状況】(60歳未満の企業型確定拠出年金口座開設・現在金融商品保有で個人型確定拠出年金口座未開設者ベース)

■ 現在導入しており、加入者拠出もしている  
 ■ 現在導入しているが、加入者拠出はしていない  
 ■ 現在導入していない  
 ■ わからない/マッチング拠出制度を知らない



- 企業型確定拠出年金の認知率(認知計：51.6%)、制度内容認知率(17.5%)とも前回よりやや増加。30代以上では5割以上が認知している。
- 企業型確定拠出年金認知者のうち、同制度での現在金融商品保有者は19.9%で前回より5.0ポイント高い。口座開設未経験が72.8%を占める。
- 企業型確定拠出年金での現在金融商品保有者のマッチング拠出実施率は45.0%。30代以上で45%以上が実施している。

# 4. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向 (2)



## 企業型確定拠出年金での保有金融商品 (重複回答)

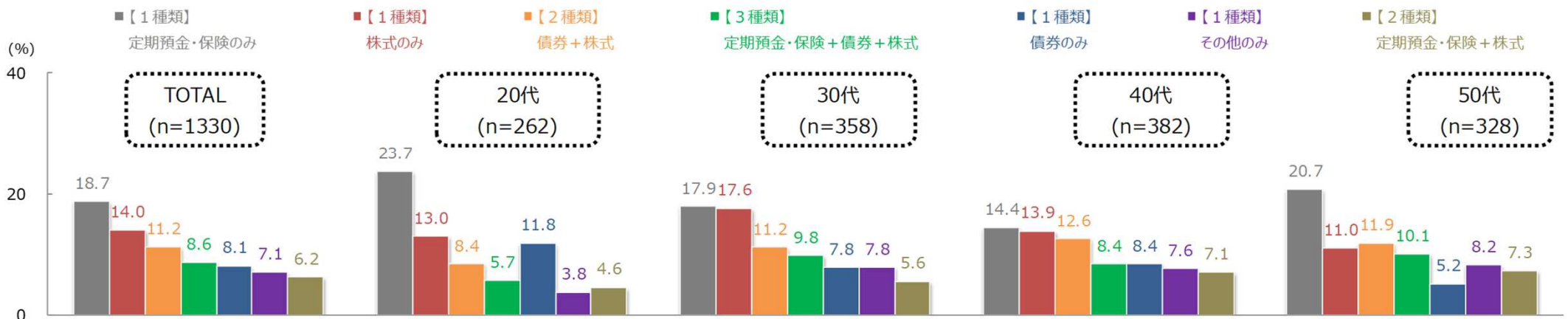
\* 投資信託計…「国内債券に主に投資～様々な資産に投資する投資信託」のいずれかを保有している者の割合 (Q16\_3①)

(60歳未満の、企業型確定拠出年金での現在金融商品保有者ベース)

n=	定期預金	保険商品	投資信託計 (*)	国内債券	外国債券	国内株式	外国株式	不動産投資	様々な	その他	わからない・ 答えたくない	
				に主に投資する投資信託	に主に投資する投資信託	に主に投資する投資信託	に主に投資する投資信託	信託に主に投資する投資信託 (除くリート)	資産に投資する投資信託			
2020年 TOTAL (1330)	35.1	14.3	67.2	28.1	26.2	38.7	34.7	5.8	11.5	2.0	12.7	
2019年 TOTAL (898)	40.0	12.9	62.5	27.1	22.8	35.2	28.0	5.0	11.4	1.2	13.7	
2020年 2代 0別 年	20代 (262)	34.7	14.9	61.1	26.7	23.7	33.2	30.2	6.1	9.5	0.8	15.3
	30代 (358)	33.2	13.7	71.8	27.1	29.1	39.1	39.9	8.1	11.5	2.2	8.9
	40代 (382)	32.7	13.4	69.4	29.1	27.2	39.8	36.1	3.9	11.5	1.6	14.9
	50代 (328)	40.2	15.5	64.6	29.3	24.1	41.5	31.1	5.2	13.1	3.0	12.2

### <年代別での金融商品保有種類別比率>

※金融商品の保有分類：「定期預金・保険」= 定期預金か保険商品保有、「債券投信」= 国内か海外債券に主に投資する投信保有、「株式投信」= 国内か海外株式に主に投資する投信保有、「不動産投信」= 不動産投信に主に投資する投信保有、「その他」= 様々な資産に投資する投信かその他商品保有 に分類して併用状況を確認した。



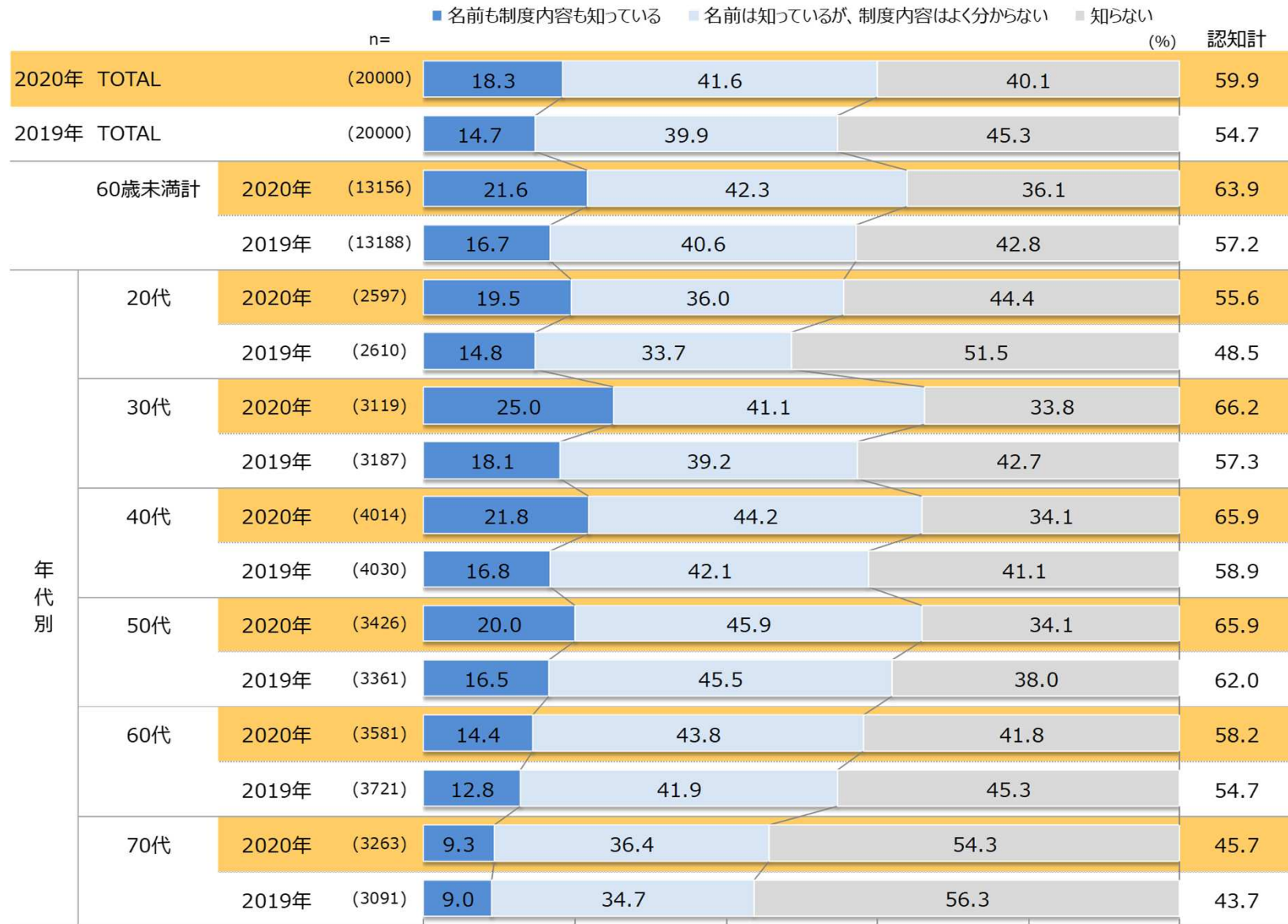
- 企業型確定拠出年金での保有金融商品では、「投資信託計\*」が67.2%。投資信託商品の中では「国内/外国株式に主に投資する投資信託」の保有率が30%以上と高い。前回に比べて、「外国株式に主に投資する投資信託」が6.7ポイント増加。
- 企業型確定拠出年金での金融商品の併用状況を年代別で見ると、各年代で「定期預金・保険」1種類の保有が最も高く、50代以外で「株式のみ」1種類の保有が10%台でこれに続く。20代・50代は「定期預金・保険」1種類の保有が高い。

# 5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (1)



## 個人型確定拠出年金の認知

(Q14⑤)



- 個人型確定拠出年金(iDeCo)の認知率(認知計：59.9%)は前回より5.2ポイント増加。制度内容認知率(18.3%)もやや増加。
- 年代別でみると、前回に比べて30代・40代で5ポイント以上、認知率が増加。30代では、「名前も制度の内容も知っている」が前回より6.9ポイント増加し、60代未満計でも前回に比べて4.9ポイント増加。

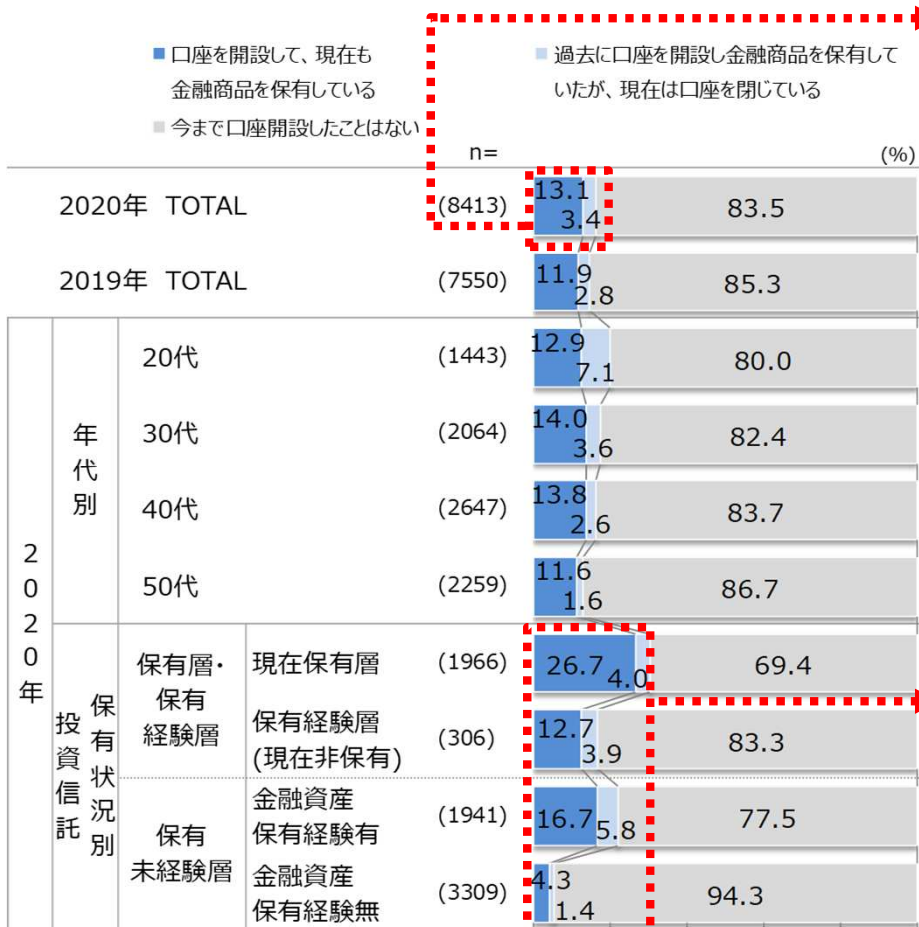
# 5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (2)



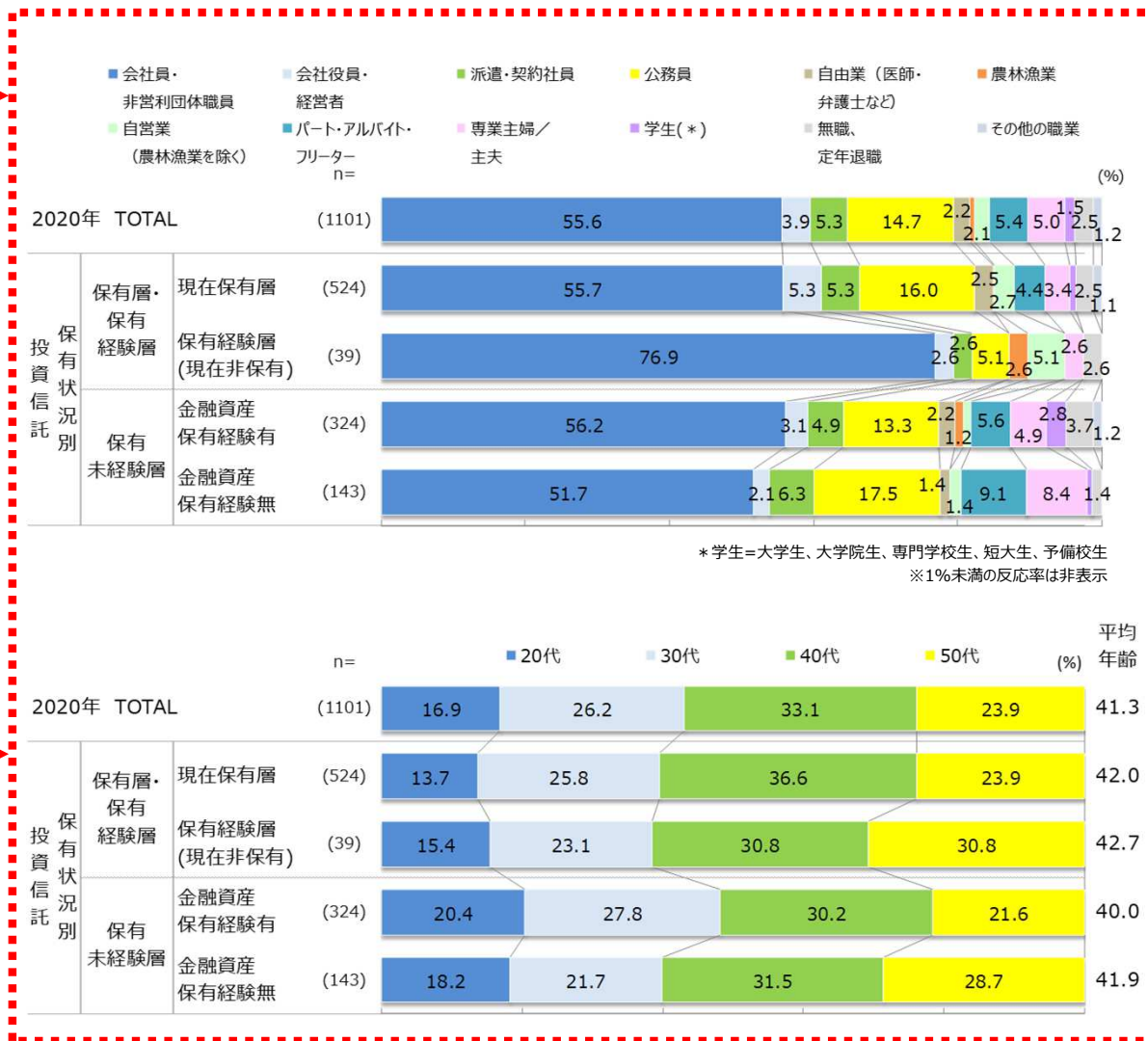
## 個人型確定拠出年金の利用状況

(Q15\_2@)

【利用状況】(60歳未満の認知者ベース)



【iDeCo 現在金融商品保有者の年代/職業 投信保有状況別】(60歳未満の認知者ベース)



- 個人型確定拠出年金認知者のうち、現在口座開設率は13.1%。83.5%が口座未開設。
- 投資信託保有状況別でみると、投資信託現在保有層で、個人型確定拠出年金での現在金融商品保有率が高い。また、個人型確定拠出年金での現在金融商品保有者の平均年齢は41.3歳。

# 5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (3)



## 個人型確定拠出年金での保有金融商品 (重複回答)

(Q16\_3②)

(60歳未満の、個人型確定拠出年金での現在金融商品保有者ベース)

		定期預金	保険商品	投資 信託計 (*)	国内債券 に主に 投資する 投資信託	外国債券 に主に 投資する 投資信託	国内株式 に主に 投資する 投資信託	外国株式 に主に 投資する 投資信託	不動産 投資信託 に主に 投資する 投資信託 (除くJリート)	様々な 資産に 投資する 投資 信託	その他	わからない ・答えたく ない (%)
2020年 TOTAL		(1101) 29.8	7.1	67.8	22.0	20.4	31.6	36.9	8.2	12.1	1.9	11.3
2019年 TOTAL		(897) 34.3	9.0	60.4	23.7	17.8	33.3	30.3	9.4	13.3	2.3	13.4
2020年 年代別	20代	(186) 34.4	12.9	62.9	23.1	21.5	21.0	28.0	8.6	7.5	1.6	10.8
	30代	(288) 25.7	6.6	74.0	23.6	22.9	34.7	40.3	8.7	9.7	1.0	9.7
	40代	(364) 26.9	5.2	67.3	20.3	19.5	31.3	43.1	8.8	13.2	1.6	14.8
	50代	(263) 35.0	6.1	65.4	21.7	18.3	36.1	30.8	6.5	16.3	3.4	8.4
	職業別	自営/自由業・農林漁業	(54) 22.2	3.7	68.5	24.1	24.1	22.2	33.3	3.7	13.0	0.0
会社員、会社役員、 派遣・契約社員など		(713) 29.0	8.1	70.7	23.6	22.2	33.4	37.4	9.4	13.6	1.5	9.3
公務員		(162) 30.9	3.1	66.0	21.0	18.5	33.3	40.1	7.4	8.0	2.5	10.5
専業主婦/主夫		(55) 27.3	3.6	56.4	21.8	14.5	32.7	30.9	1.8	5.5	5.5	23.6

\* 投資信託計・・・「国内債券に主に投資～様々な資産に投資する投資信託」のいずれかを保有している者の割合

- 個人型確定拠出年金での保有金融商品は「投資信託計\*」67.8%で前回より7.4ポイント増加。「国内株式／外国株式に主に投資する投資信託」の保有率が30%以上と高い。「外国株式に主に投資する投資信託」は前回より6.6ポイント増加。
- 30代で「投資信託計\*」が74.0%と高く、「国内株式／外国株式に主に投資する投資信託」の保有率がやや高い。職業別で見ると、専業主婦/主夫では「投資信託計\*」が他職業に比べて低い。



# 5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (5)



## 個人型確定拠出年金の魅力点 (重複回答)

(Q27②)

(60歳未満の者ベース)

		n=	掛金が全額所得控除される	通常、金融商品の運用益には税金がかかるが、運用益も非課税で再投資される	受け取るときにも税制優遇措置がある	金融商品の種類や、掛金の額は途中で変更できる	運用する金融商品には元本確保型の定期預金や保険商品もある	掛金の運用は加入者自身で行い、受け取る額は運用成績により変動する	転職・離職の際にそれまで積み立てた資産を持ち運ぶことができる	原則60歳から受け取ることができる	口座は70歳まで継続できる	掛金の上限額は、加入者の職業等によって異なる	加入者期間が10年に満たない場合は受給開始可能年齢が繰り下げられる	口座管理手数料などがかる	わからない・特にならない	(%)
2020年 TOTAL		(13156)	30.4	9.9	6.8	6.2	5.6	5.2	5.2	4.4	3.4	2.4	1.8	1.3	59.5	
2019年 TOTAL		(13188)	26.7	8.7	5.7	5.3	5.3	4.2	4.7	4.1	3.4	2.5	1.5	1.2	63.4	
2020年	性別															
	男性	(6695)	33.5	11.9	7.0	6.1	5.7	7.0	5.6	4.3	3.6	3.3	1.9	1.9	55.1	
	女性	(6461)	27.3	7.9	6.5	6.2	5.6	3.4	4.8	4.6	3.3	1.5	1.7	0.8	64.1	
	年代別	20代	(2597)	27.6	10.1	6.5	7.7	6.3	7.2	7.0	5.1	4.3	4.0	3.0	1.9	58.2
		30代	(3119)	34.5	11.5	6.8	6.9	5.9	5.9	6.3	4.3	3.0	2.9	1.8	1.5	54.2
		40代	(4014)	31.4	9.8	7.2	5.7	5.2	4.9	4.5	4.1	3.2	2.1	1.4	1.1	59.5
		50代	(3426)	27.8	8.6	6.5	4.8	5.5	3.6	3.5	4.4	3.4	1.3	1.4	0.9	65.4
	世帯年収別	100万円未満	(457)	19.9	6.6	5.9	4.6	4.8	3.1	4.2	4.2	5.0	2.0	2.2	1.5	72.9
		～300万円未満	(1473)	20.7	6.6	5.0	5.4	5.4	2.7	4.7	4.3	3.1	1.4	1.3	0.8	70.0
		～500万円未満	(2632)	32.9	10.6	7.7	7.1	6.1	6.0	5.4	4.9	3.6	2.8	2.1	1.8	55.8
		～1000万円未満	(4360)	38.3	13.0	8.2	7.3	6.8	6.8	6.1	5.2	3.5	3.0	2.0	1.6	49.0
		1000万円以上	(1238)	45.7	15.3	9.5	7.5	7.3	8.4	7.1	6.3	4.6	4.0	3.1	1.9	42.1
	職業別	自営/自由業・農林漁業	(756)	27.6	11.1	6.2	4.8	6.5	4.8	3.4	5.0	4.4	3.3	2.1	2.0	61.5
		会社員、会社役員、派遣・契約社員など	(6442)	36.7	11.8	7.4	7.0	6.4	6.6	6.3	4.7	3.3	3.0	2.0	1.6	51.8
		会社員、会社役員、派遣・契約社員など (企業型DC現在非加入層)	(2767)	46.9	15.4	10.3	9.5	8.5	7.8	7.1	5.6	3.7	3.4	2.6	2.1	40.5
		公務員	(651)	46.7	15.1	10.9	7.1	6.1	10.1	5.7	4.6	3.1	3.2	1.8	2.0	42.9
		専業主婦/主夫	(1640)	20.7	6.0	5.5	4.7	5.2	2.5	3.2	3.5	2.8	1.0	1.2	0.5	71.3
	個人型確定拠出年金実施状況別	口座開設層	(1101)	70.3	23.3	16.2	13.4	10.2	17.7	9.7	6.4	5.0	5.4	2.5	3.0	13.4
		認知・口座非開設層	(7029)	36.7	11.9	8.1	7.0	6.9	4.7	5.8	5.2	3.7	2.2	2.0	1.3	52.4
		非認知層	(4743)	11.0	3.4	2.5	2.8	2.4	2.3	2.9	2.7	2.5	1.6	1.2	0.8	83.4

● 個人型確定拠出年金の魅力点では、「掛金が全額所得控除される」(30.4%)が最も高く、それ以外の項目は10%未満にとどまる。

● いずれの属性でも「掛金が全額所得控除される」が最も高い。

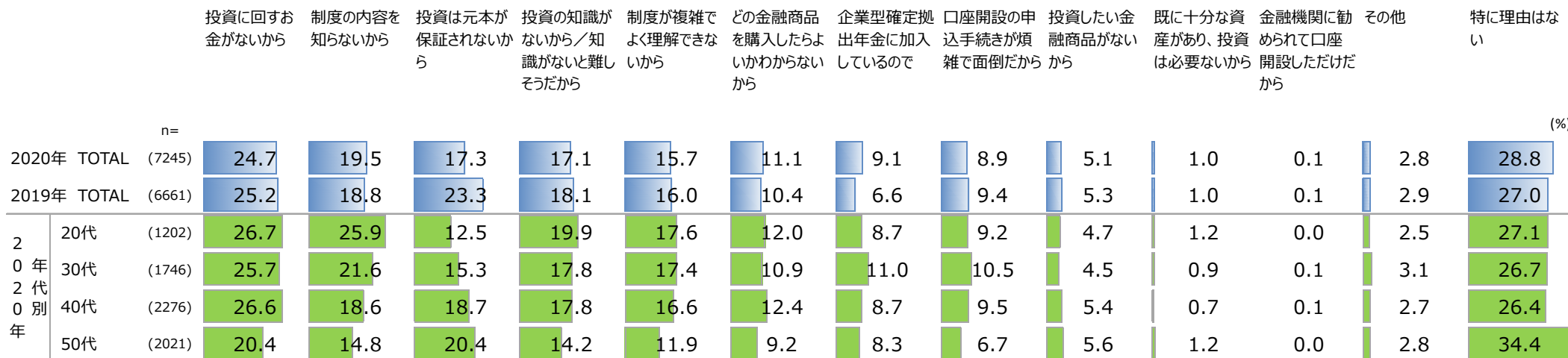
# 5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (6)



## 個人型確定拠出年金の口座開設・投資性商品未購入理由および口座未開設理由 (重複回答)

(Q25)

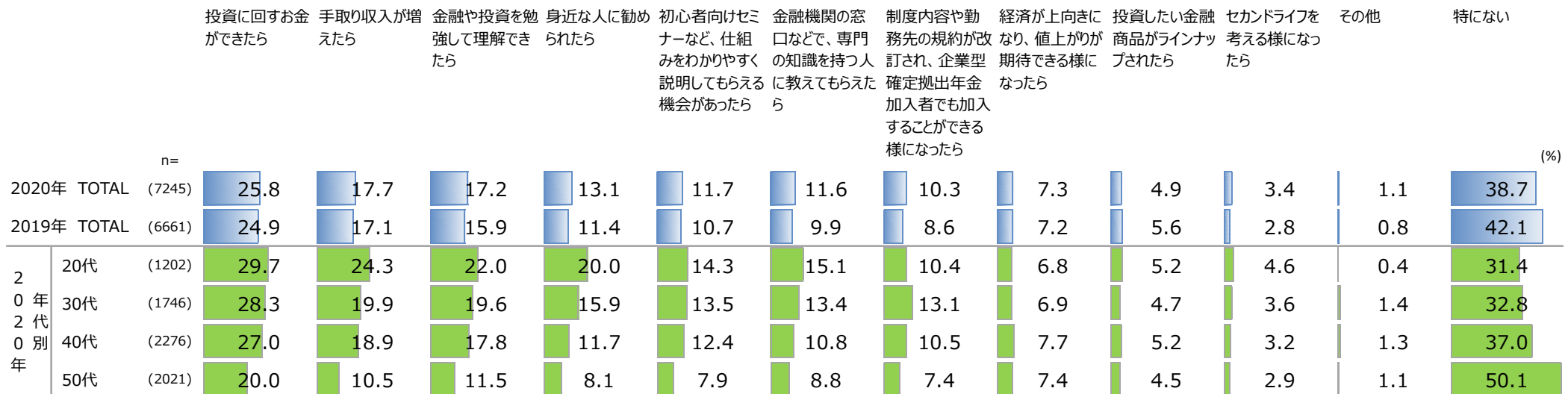
(60歳未満の口座開設・投資性商品未購入、口座未開設層ベース)



## 個人型確定拠出年金での投資性商品購入および口座開設検討のきっかけ (重複回答)

(Q26)

(60歳未満の口座開設・投資性商品未購入、口座未開設層ベース)



- 個人型確定拠出年金で投資性商品(定期預金・保険を除く商品)未購入や口座未開設の理由は、「投資に回すお金がない」(24.7%)が最も高く、「制度の内容を知らないから」(19.5%)が続く。これに次ぐ「投資は元本が保証されない」(17.3%)は、前回より6.0ポイント減少。
- 個人型確定拠出年金での投資性商品(定期預金・保険を除く商品)購入や口座開設検討のきっかけは、「投資に回すお金ができたなら」(25.8%)、「手取り収入が増えたら」(17.7%)と上位2つが経済的な理由となっている。次いで「金融や投資を勉強して理解できたなら」(17.2%)と知識不足の解消に関する項目が続く。



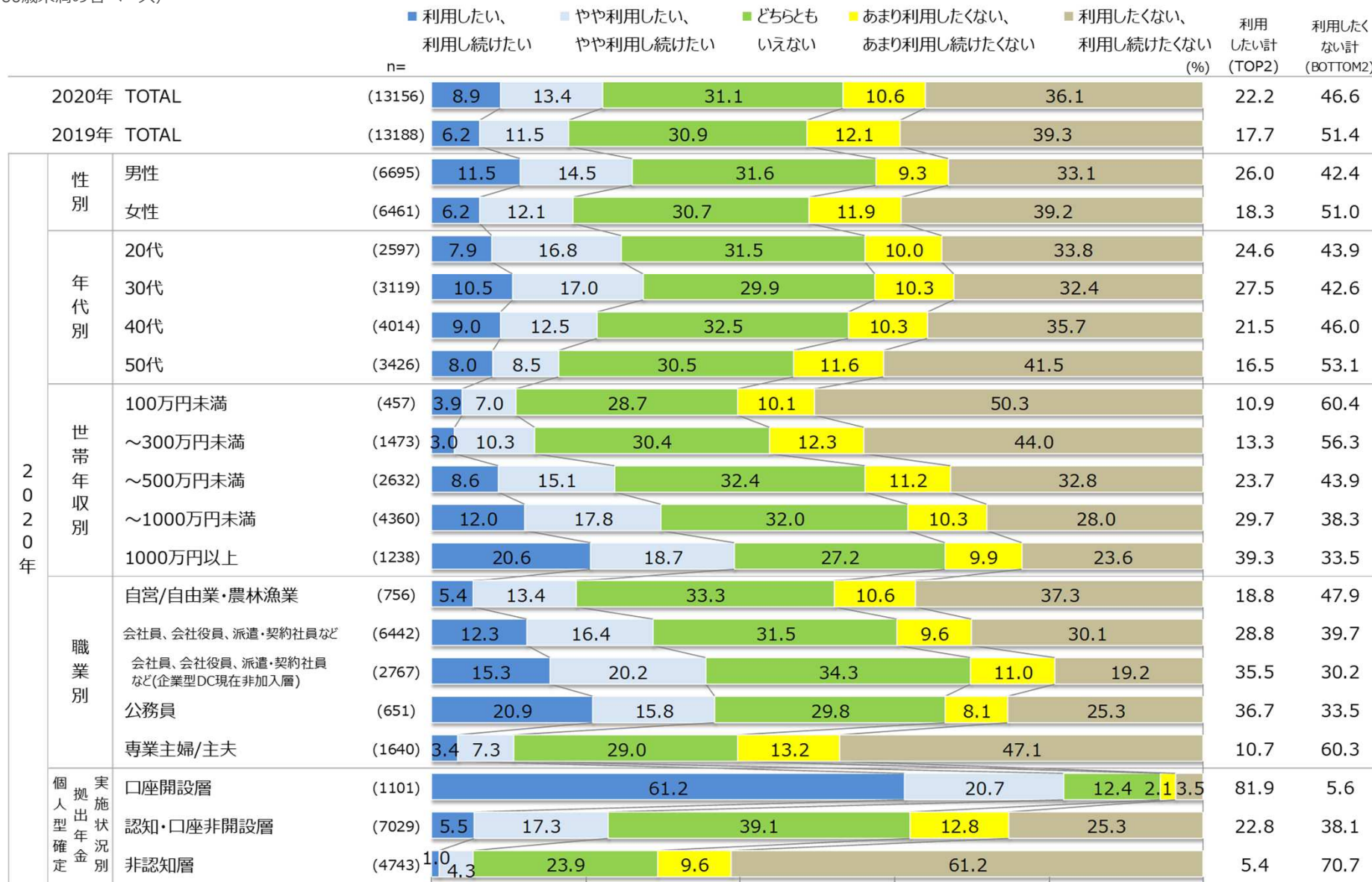
# 5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (7)



## 個人型確定拠出年金の今後の利用意向・継続利用意向

(Q28)

(60歳未満の者ベース)



- 個人型確定拠出年金の利用意向は、「利用したい計」(TOP2:22.2%)、「利用したくない計」(BOTTOM2:46.6%)と、前回より利用意向がやや増加。
- 「利用したい計」は30代、公務員、会社員など（企業型DC現在非加入層）が他層に比べて高く、世帯年収が上がるほど高くなる。

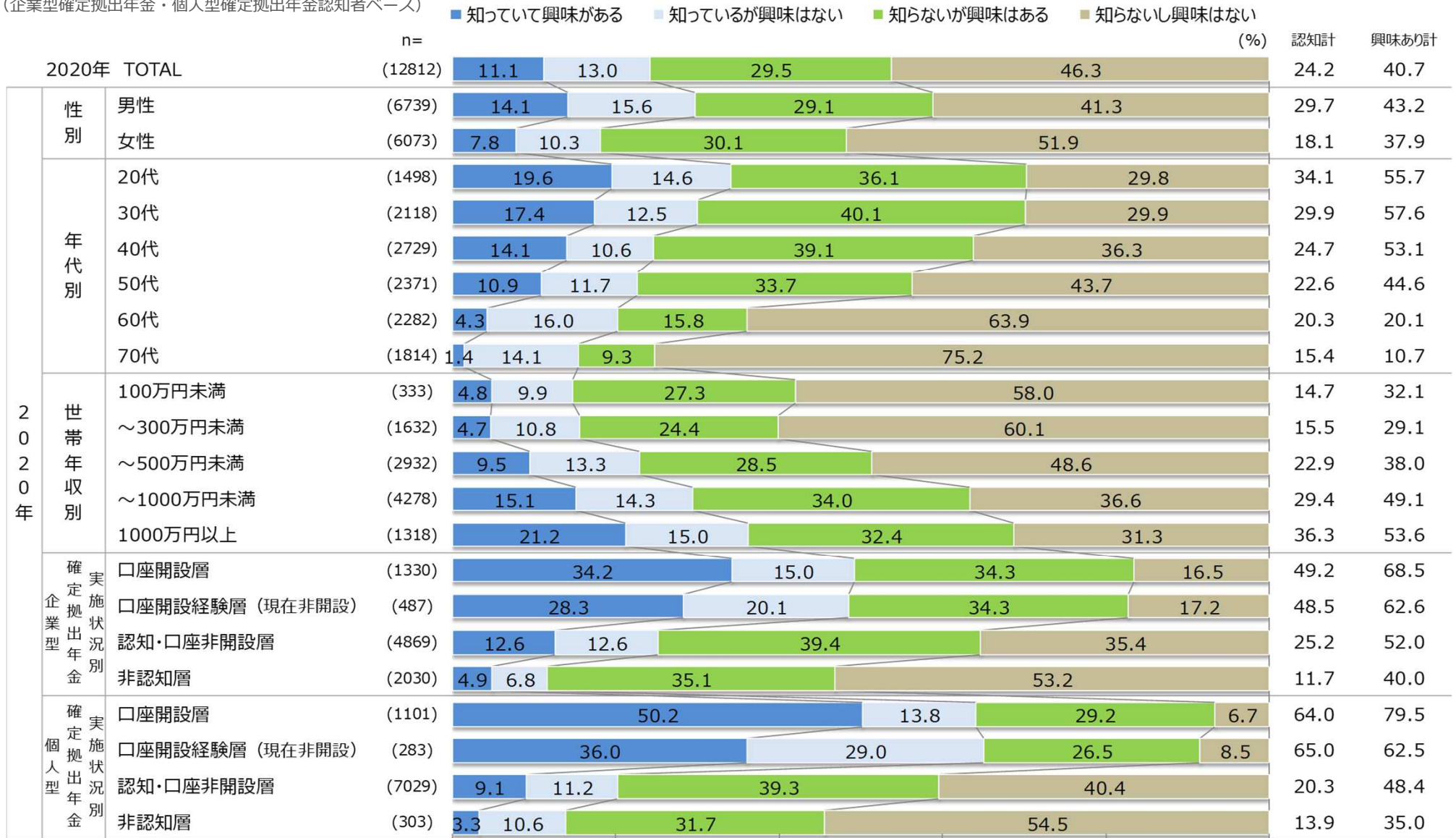
# 6. 確定拠出年金制度の制度改正認知



## 確定拠出年金制度の対象者拡大・受給開始の上限延長に関する認知と興味度

(Q29)

(企業型確定拠出年金・個人型確定拠出年金認知者ベース)



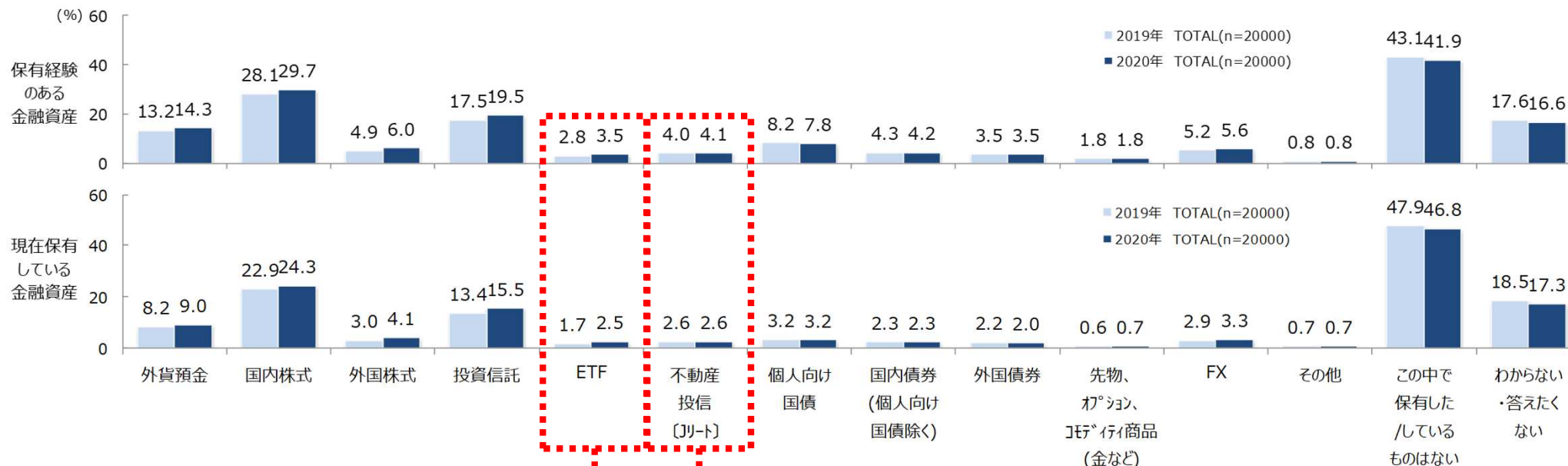
- 確定拠出年金制度の制度改正の認知率(認知計)は24.2%、興味度(興味あり計)は40.7%。
- 認知率、興味度ともに、男性の方が高い。また、年代別では若年層ほど高い傾向で、世帯年収別では高年収層ほど高い。
- 企業型確定拠出年金実施状況別では、口座開設層、口座開設経験層の認知率が5割弱、興味度が6割を超え、他層より高い。個人型確定拠出年金実施状況別では、口座開設層、口座開設経験層の認知率が6割半ば、興味度は口座開設層が8割、口座開設経験層が6割と他層より高い。

# 7. ETF、Jリート of 浸透状況、今後の購入意向 (1)



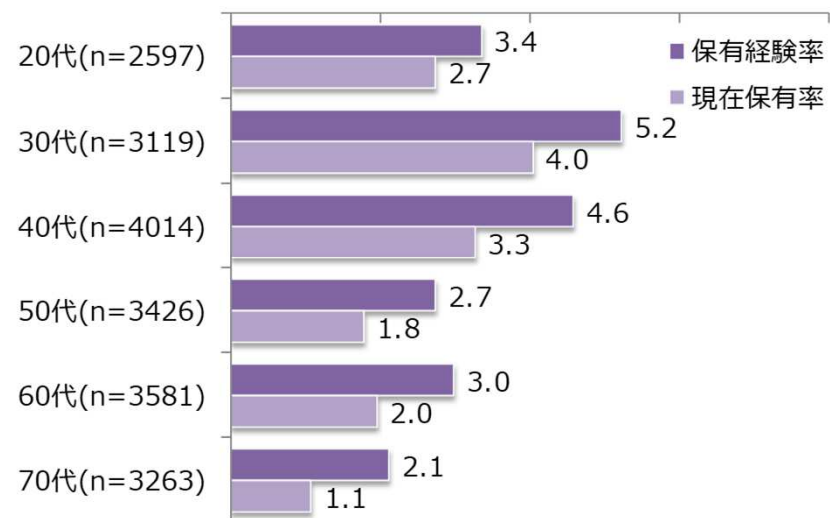
## 投資信託の保有状況

(Q6 ①②)



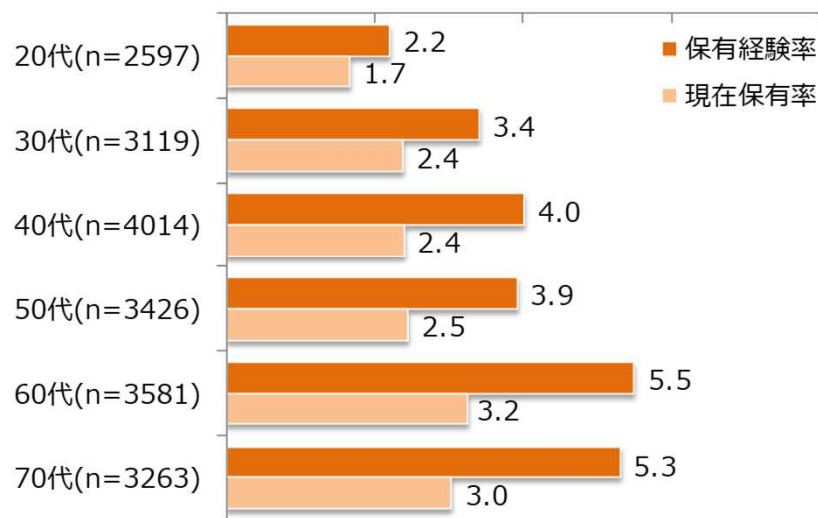
### <ETF 年代別保有経験/現在保有率>

0 2 4 6 8 (%)



### <リート 年代別保有経験率/現在保有率>

0 2 4 6 8 (%)



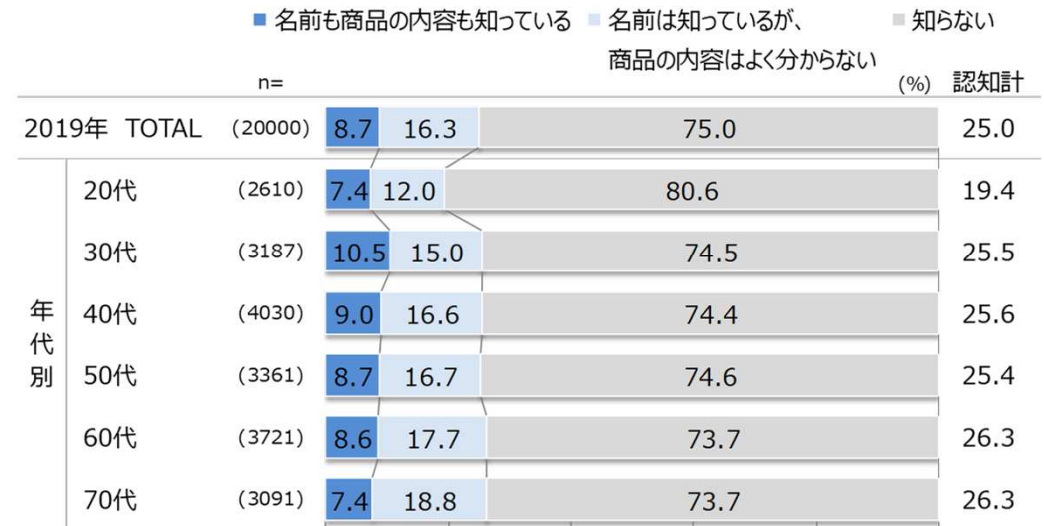
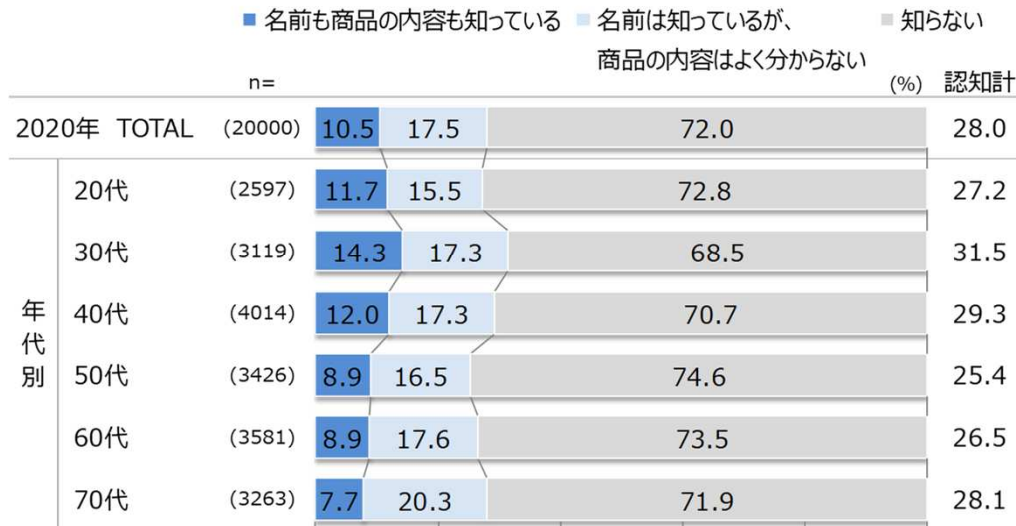
- ETF、リートの保有経験率は3.5%、4.1%、現在保有率は2.5%、2.6%と低い水準にとどまる。
- 30代・40代で「ETF」の保有経験率、現在保有率がやや高い傾向。リートは高齢層の保有経験率がやや高い。

# 7. ETF、Jリートへの浸透状況、今後の購入意向（2） <ETF>



## ETFの認知

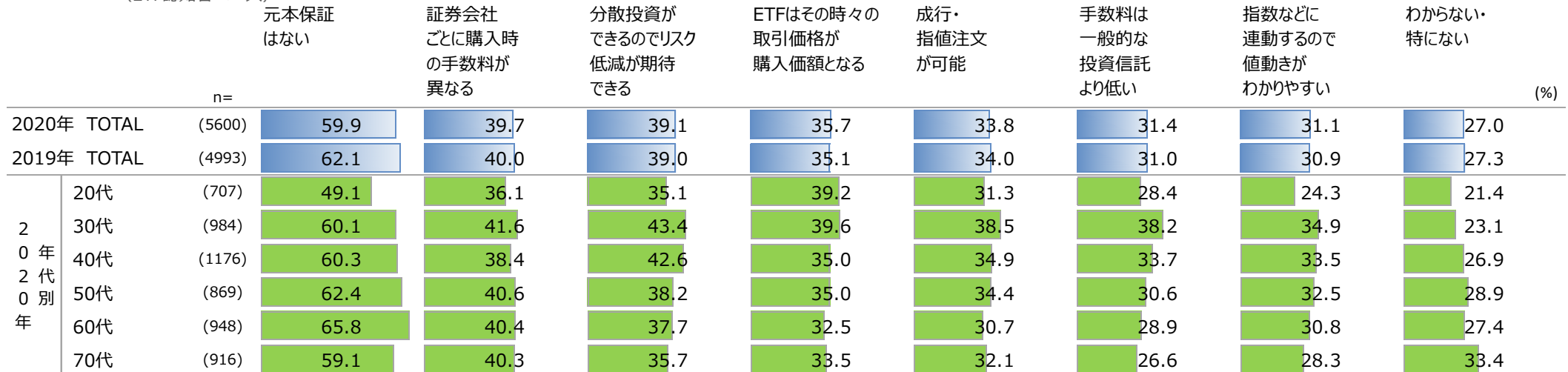
(Q8①)



## ETFの特徴認知（重複回答）

(Q9①)

(ETF認知者ベース)



- ETFの認知率(認知計)は28.0%、商品内容認知率は10.5%と、ともに前回よりわずかに増加傾向。年代別では、30代・40代で認知率がやや高い。前回と比べて、20代・30代の認知率が増加。
- ETFの特徴の認知は、前回同様に「元本保証はない」(59.9%)が特に高い。20代では、「元本保証はない」が他の年代に比べて低い。

# 7. ETF、Jリートの浸透状況、今後の購入意向（3） <Jリート>



## Jリートの認知

(Q8②)

年代別	n=	認知計 (%)		
		名前も商品の内容も知っている	名前は知っているが、商品の内容はよく分からない	知らない
2020年 TOTAL	(20000)	11.9	20.5	67.6
20代	(2597)	10.2	18.8	71.0
30代	(3119)	13.7	18.9	67.4
40代	(4014)	12.5	19.6	67.9
50代	(3426)	10.8	19.8	69.4
60代	(3581)	12.3	21.3	66.5
70代	(3263)	11.9	24.3	63.8

年代別	n=	認知計 (%)		
		名前も商品の内容も知っている	名前は知っているが、商品の内容はよく分からない	知らない
2019年 TOTAL	(20000)	10.7	20.1	69.2
20代	(2610)	7.0	15.4	77.6
30代	(3187)	10.6	17.5	71.9
40代	(4030)	10.5	19.5	70.0
50代	(3361)	10.8	19.5	69.7
60代	(3721)	12.6	22.3	65.1
70代	(3091)	11.9	25.5	62.7

## Jリートの特徴認知（重複回答）

(Q11①)

(Jリート認知者ベース)

年代別	n=	少額から不動産投資できる	複数の不動産に分散して投資できる	元本保証がない	専門家が運用や物件の管理などを行う	比較的高い利回りが期待できる	賃料収入を主な分配金原資としている	運用益のほとんどが分配されている	保有資産にはオフィスビル～単体、複合で保有するタイプがある	取引所で売買ができるため、換金性・流動性が高い	インフレ対策になる	ファンドによって決算期が分散している	開示されている情報が入手しやすい	わからない・特にな
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
2020年 TOTAL	(6486)	44.0	34.4	29.3	26.4	24.0	23.2	20.1	19.6	19.3	18.7	15.5	10.4	35.4
2019年 TOTAL	(6162)	43.7	35.5	31.7	28.0	25.5	24.1	19.9	19.4	19.7	19.1	15.9	10.1	34.3
20代	(754)	44.3	31.2	15.4	23.2	19.9	20.8	20.0	17.1	12.7	17.0	12.2	11.3	29.6
30代	(1017)	54.0	39.7	25.9	29.5	27.0	25.1	24.5	21.0	18.8	21.1	16.7	11.3	26.5
40代	(1287)	47.2	36.4	28.7	26.0	24.2	24.8	21.1	18.9	19.2	18.6	16.4	10.6	33.5
50代	(1047)	44.1	34.1	34.0	25.4	24.1	23.0	17.9	21.2	19.1	19.3	16.6	10.5	37.4
60代	(1201)	39.9	33.8	33.5	26.2	25.4	22.6	19.2	20.1	20.7	16.7	15.8	9.5	38.5
70代	(1180)	35.7	30.8	33.2	27.4	22.5	21.9	18.1	18.7	23.1	19.4	14.1	9.8	44.0

- Jリートの認知率(認知計)は32.4%、商品内容認知率11.9%で前回と同程度。年代別では70代の認知率がやや高い。前回と比べて、20代、30代の認知率が増加。
- Jリートの特徴の認知は「少額から不動産投資できる」(44.0%)が最も高く、これに「複数の不動産に分散して投資できる」(34.4%)、「元本保証がない」(29.3%)が続く。どの項目も認知率は前回と同程度。

# 7. ETF、Jリートの浸透状況、今後の購入意向（4） <Jリート>



## Jリートの魅力点（重複回答）

(Q11②)

少額から不動産投資できる  
 比較的高い利回りが期待できる  
 複数の不動産に分散して投資できる  
 専門家が運用や物件の管理などを行う  
 運用益のほとんどが分配されている  
 インフレ対策になる  
 取引所で売買ができるため、換金性・流動性が高い  
 賃料収入を主な分配金原資としている  
 開示されている情報が入手しやすい  
 保有資産にはオフィスビル～単体、複合で保有するタイプがある  
 ファンドによって決算期が分散している  
 元本保証がない  
 わからない・特にない

		n=	19.2	11.6	9.9	7.7	7.0	5.3	5.2	4.0	3.8	3.2	2.3	1.6	68.3	
2020年 TOTAL		(20000)	19.2	11.6	9.9	7.7	7.0	5.3	5.2	4.0	3.8	3.2	2.3	1.6	68.3	
2019年 TOTAL		(20000)	17.7	11.4	9.1	6.9	6.5	5.3	5.0	3.8	3.6	2.8	2.2	2.1	69.1	
性別	男性	(9950)	20.9	12.8	11.7	7.4	8.6	6.8	6.7	5.0	3.5	3.9	2.8	1.8	63.7	
	女性	(10050)	17.4	10.4	8.2	8.0	5.4	3.8	3.7	3.0	4.0	2.4	1.7	1.3	72.8	
年代別	20代	(2597)	27.9	13.2	13.4	11.0	8.1	6.4	4.6	6.0	6.6	4.2	2.8	2.3	58.0	
	30代	(3119)	27.8	13.3	13.4	10.4	8.1	5.8	4.7	5.2	5.0	3.4	2.3	1.4	58.5	
	40代	(4014)	21.2	11.6	10.4	7.9	7.7	5.2	4.9	4.6	3.8	3.0	2.2	1.8	65.9	
	50代	(3426)	16.9	10.8	8.0	6.1	5.8	4.7	4.5	3.1	3.0	2.9	2.2	1.1	72.0	
	60代	(3581)	13.1	10.9	7.8	6.2	6.5	4.8	5.5	2.8	2.7	2.7	2.1	1.5	75.2	
	70代	(3263)	10.6	10.2	7.6	5.7	6.1	5.2	6.9	3.0	2.3	2.9	2.1	1.4	77.2	
	2020年世帯年収別	100万円未満	(721)	17.6	8.9	6.5	5.7	5.4	2.9	4.4	3.2	3.7	2.2	1.8	2.4	74.1
～300万円未満		(2889)	15.5	8.7	7.2	7.2	5.2	4.0	4.6	3.1	3.6	2.2	1.7	1.2	75.1	
～500万円未満		(4415)	21.2	12.7	10.7	8.5	7.4	5.9	5.4	4.6	4.2	3.3	2.2	1.9	65.7	
～1000万円未満		(5626)	24.8	15.7	13.2	9.4	9.7	7.3	6.9	5.2	4.5	4.3	2.9	1.8	57.8	
1000万円以上		(1621)	27.2	17.5	17.6	11.5	11.5	9.3	8.2	6.8	5.2	5.9	4.9	1.4	52.4	
Jリート保有状況別	保有層・保有経験層	現在保有層	(512)	45.7	45.3	34.8	20.1	32.6	22.3	25.8	19.5	8.8	17.0	12.5	2.1	12.7
		保有経験層(現在非保有)	(315)	29.2	36.5	31.1	14.9	24.1	16.2	24.1	12.4	3.8	14.0	11.7	3.2	21.3
	認知・保有未経験層	金融資産保有経験有	(4068)	28.5	18.8	18.6	11.1	12.9	10.5	10.3	7.3	3.8	6.3	3.5	1.3	42.7
		金融資産保有経験無	(1085)	23.6	14.2	12.2	10.2	7.3	5.9	3.8	4.1	5.6	2.9	2.4	2.9	61.8
	非認知層	金融資産保有経験有	(3271)	24.7	13.8	11.2	9.8	7.9	5.4	5.7	4.3	4.8	2.9	2.4	1.6	65.7
		金融資産保有経験無	(7287)	14.4	6.7	4.9	5.7	3.1	2.4	1.9	1.9	3.8	1.1	1.0	1.5	80.8

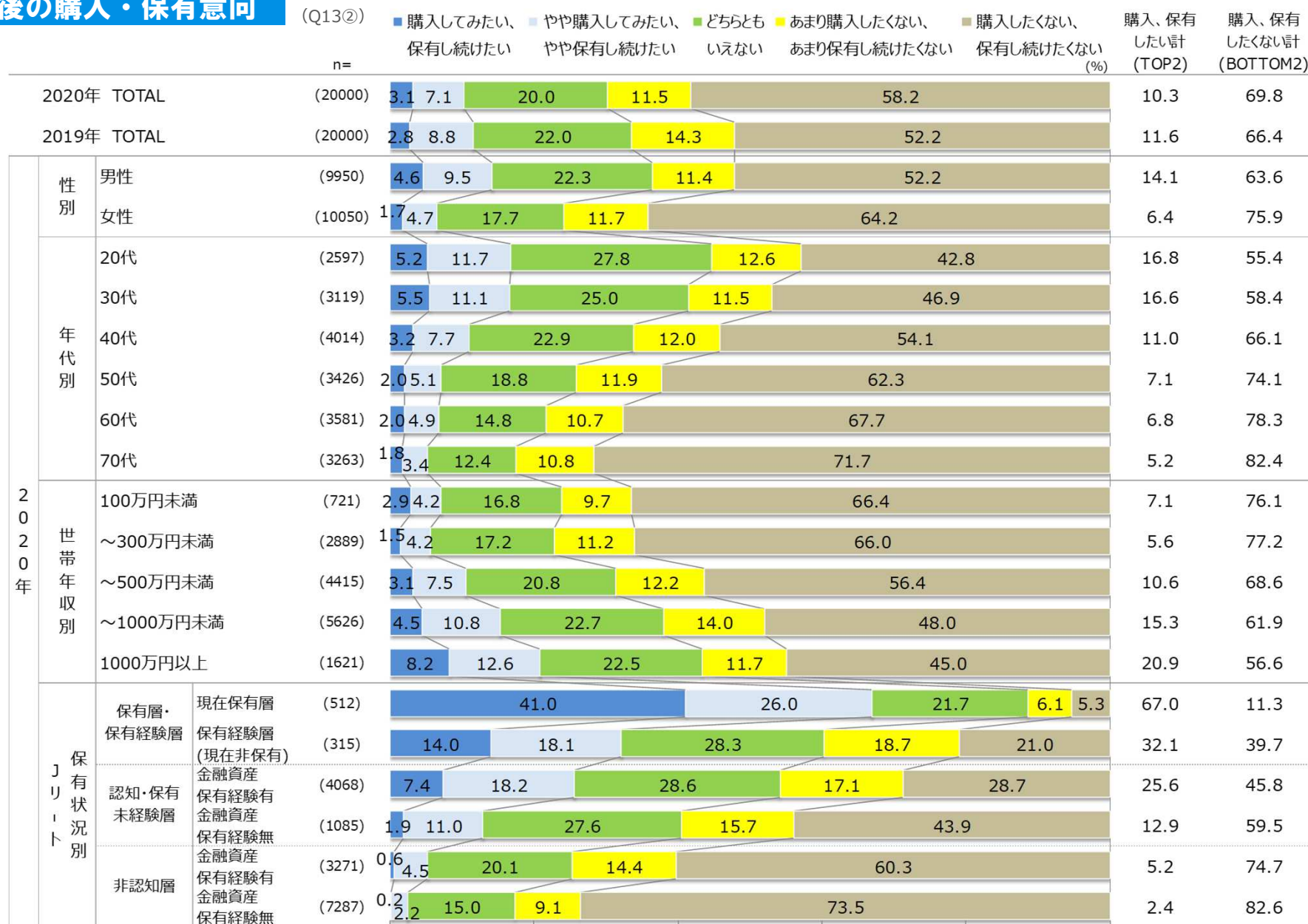
● Jリートの魅力点は、「少額から不動産投資できる」(19.2%)が最も高い。前回と比べても大きな変動はみられない。年代別では「少額から不動産投資できる」は若年層ほど高い。

● Jリート現在保有層では「少額から不動産投資できる」「比較的高い利回りが期待できる」が45%程度と高い。

# 7. ETF、Jリートの浸透状況、今後の購入意向（5） <Jリート>



## Jリート今後の購入・保有意向



● Jリートの今後の購入・継続保有意向は、「購入、保有したい計」(TOP2)が10.3%と前回と同程度。「購入、保有したくない計」(BOTTOM2)が69.8%で、「購入したくない、保有し続けたくない」(58.2%)が前回より6.0ポイント増加。

● Jリート現在保有層では「購入、保有したい計」が67.0%にのぼる。